

2024年度版

事業概要

東部地域療育センターぽけっと

はじめに

2024年度、ぽけっとは10周年を迎えました。ちよだは2023年度に20周年を迎えています。ちよだは入園希望者が多く、2025年度からは25名から30名定員に増員されます。また、ぽけっとも44名から2025年度は45名うけいれることになりました。発達センターちよだの療育センター化を望む声は日増しに大きくなっています。できるだけ早く、守山に地域療育センターができることが望まれます。

通園療育はこれまでの長い年月の積み重ねで、ちよだもぽけっとも「①こどもたちひとりひとりの発達、障がい、家族状況をとらえ、こどもから出発した療育。②本物の体験、自然の中で遊ぶ経験、生活年齢にふさわしい生活と遊びの経験を大切にする保育」を大切にし、実践してきました。これらの理念に基づいて職員は療育実践をすすめる研修し学びがあります。こどもたちはどんなに障がいの重い子もはじける笑顔で毎日楽しく先生や友だちと遊んでいます。こどもにとって楽しく遊ぶことが発達が一番の原動力になることはこの20年間の保育が証明しています。そしてこれらの療育実践を外にむけて広く発信していく役割があると思います。

地域支援調整部は2024年度で4年目となり、「初診前サポート」、「巡回」、「施設支援」、「保育所等訪問支援」などの事業を通して、地域療育センターと保育園、幼稚園、地域とは顔の見える関係になり、地域の保育のレベルが向上し、こどもたちがよりよい保育環境で生活できることに貢献しました。しかし保護者の就労等家庭状況の変化、低年齢での就園、満3歳入園での幼稚園希望の増加、幼保一体型発達支援事業所の増加、訪問リハ、訪問看護等の利用の増加など社会情勢の変化から「本来通園対象児である肢体障がい重心児や重度障がい児が保育園に就園する。就園前療育グループへの参加児の減少。保健センターの親子教室参加人数の減少に伴い親子教室の縮小化」という従来からは予測もつかないような状況になっています。乳幼児期早期から保育園や児童発達支援事業所につながった場合、その子の発達にみあった適切な療育の場の選定が難しくなっています。最適な場ではなくても家庭状況を考慮して妥協的な選択になってしまうこともあり、その子にとってその選択肢で、はたしてよかったのかどうかと、発達の視点に立つと忸怩たる思いをすることが多くなりました。これは、療育センターだけでは解決できない課題であり、地域の幼稚園や保育園との連携がさらに必要であり、地域全体の保育の底上げをしていく必要があると思います。

地域療育センターは就学前までの子を対象（ただし、肢体障がいの方は18歳まで）としてきました。就学前から学齢期への移行時は親子ともども大きな環境変化で一番不安をかかえる時期であり、継続した移行支援が一番必要な時期ではないかと思います。しかし就学時まで支援を広げると、今の地域療育センターとしてはキャパオーバーになってしまうため、あえて支援をひかえています。近年、発達障がい児の増加に伴い、地域療育センターの責任として学齢期の移行支援の必要性を痛感しています。名古屋市に発達障がいの学齢児の実態を把握していただき、学齢児支援の将来ビジョンの提示や制度、人員配置の見直しなどを要求していきたいと思います。

2025年3月末

東部地域療育センターぽけっと

所長 荒川とよ子

目 次

第1	施設の概要	1
1	施設の目的	1
2	設置運営	1
3	施設構成	1
4	法人の経緯	1
5	建物の概要	3
6	事業の概要	3
	(1) 事業の種類	3
	(2) 担当地域	3
	(3) 組織・職員体制	4
	(4) 相談の流れ	5
第2	地域支援調整事業	6
1	初回相談	6
2	療育グループ	7
	(1) 就園前グループ	7
	(2) 並行グループ	12
3	巡回療育 訪問療育 施設支援	16
	(1) 巡回療育	16
	(2) いこいの家事業への支援指導	18
	(3) 訪問療育指導	19
	(4) 施設支援事業	20
4	関係機関連携	21
	(1) 関係機関への職員派遣	21
	(2) 連絡調整会議	21
第3	発達相談事業	22
1	新規相談	22
2	発達検査および発達相談	26
	(1) 新規相談児童の発達相談	26
	(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談	26
第4	医療事業	28
1	診療	28
	(1) 小児科	28
	(2) 整形外科	29

(3) 耳鼻咽喉科	32
(4) 診断書等発行	34
2 (リ) ハビリテーション	35
(1) 理学療法 (PT)	35
(2) 作業療法 (OT)	39
(3) 言語聴覚療法 (ST)	42
(4) (リ) ハビリスタッフにおける生活支援	46
第5 通園事業	48
1 施設概要	48
(1) 定員	48
(2) 対象	48
(3) クラス編成	48
(4) 通園形態	48
(5) 親子通園の種類	48
(6) 通園バス	48
2 療育目標	48
3 日課	49
4 児童の状況	50
5 行事	54
6 家族の状況と支援	55
7 通園地域ケア	57
8 ボランティア	58
第6 その他の事業	59
1 障害児相談支援事業	59
2 保育所等訪問支援事業	61
3 名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザー事業	62
平面図	64

第1 施設の概要

1 施設の目的

「東部地域療育センターぽけっと」は、地域に住んでいる発達や育ちが気になる子ども・障害を持つ子どもとその家族に対して相談・療育を行う。毎日通う集団の場としての「通園事業」、個別相談、親子で参加する療育グループを主とした「発達相談事業」、診察・検査・(リ)ハビリテーションを行う「医療・訓練事業」、地域で安心して暮らせるように支える「地域ケア事業」の4つの事業を主としてすすめる。

2 設置運営

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

3 施設構成



- ・保健医療機関指定
- ・生活保護法医療機関指定
- ・障害児リハビリテーション基準承認
- ・運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
- ・脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認 等

4 法人の経緯

1961年3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961年4月	社会館保育部認可
1966年4月	心身障害乳幼児の通園施設「愛育園」開設
1973年4月	「愛育園」（精神薄弱児通園施設：当時、定員30名）認可
1987年3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989年7月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992年2月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996年4月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998年10月	障害児（者）地域療育等支援事業 受託
2000年3月	名古屋キリスト教社会館 第2次将来計画 21世紀福祉プラン策定
2003年4月	支援費制度 開始
	知的障害児通園施設 名古屋市立あつた学園 市より運営移管
	「発達センターあつた」認可
	知的障害児通園施設 名古屋市立ちよだ学園 市より運営移管
	「発達センターちよだ」認可

	「デイサービスちよだ」開始
	「デイサービス ACT」開始
2003年6月	子どもセンターみどり開所 「デイサービスみどり」開始
2004年4月	「デイサービスあつた」開始
2006年4月	障害者自立支援法施行
2006年10月	障害者自立支援法施行に伴う児童福祉法改定で通園施設が契約制度に
2010年7月	名古屋キリスト教社会館「東館」開所
2010年8月	「東館」2階 療育グループ専用室確保
2010年9月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 創立50周年
2012年4月	児童福祉法一部改定により事業名称「福祉型児童発達支援センター」に変更
2013年3月	子どもセンターとくしげ 開始
2013年7月	障害児相談支援事業所 そよ風 障害児相談支援事業所 あつた 障害児相談支援事業所 ちよだ 開始
2014年6月	「東部地域療育センターほけっと」竣工
2015年4月	障害児相談支援事業所 ほけっと 開始
2016年4月	南部地域療育センターそよ風 通園部 定員10名増
2017年2月	東部地域療育センターほけっと 保育所等訪問支援事業との多機能で再指定
2019年7月	東部地域療育センター ほけっと 初診前サポート事業（名古屋市モデル事業）受託
2020年7月	東部地域療育センター ほけっと 地域支援調整事業 受託・開始
2021年7月	南部地域療育センター そよ風 初診前サポート事業 受託
2021年8月	南部地域療育センター そよ風 医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業 開始
2022年7月	南部地域療育センター そよ風 地域支援調整事業 開始
2023年4月	東部地域療育センター ほけっと 医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業 開始

5 建物の概要

敷地面積	4,188.17㎡
構造	鉄筋コンクリート造2階建
規模	建築面積 1,062.01㎡
	延べ床面積 1,750.0㎡

6 事業の概要

(1) 事業の種類

発達相談事業	—	相談、検査、診断、支援方針検討
	—	療育グループ（就園前・並行）
医療訓練事業	—	診療：小児科・整形外科・耳鼻咽喉科（児童精神科は医師の退職により休診中）
	—	（リ）ハピリテーション：理学療法・作業療法・言語聴覚療法・摂食嚥下療法
通園事業	—	単独通園・親子通園（新規、継続）
	—	見守り一時支援事業
	—	アフターケア
地域支援調整事業	—	初回相談（インテーク）
	—	療育グループ
	—	巡回療育、訪問療育
	—	地域連携調節
	—	施設開放、地域啓蒙、ボランティア養成

障害児相談支援事業

保育所等訪問支援事業

(2) 担当地域

千種区・守山区・名東区

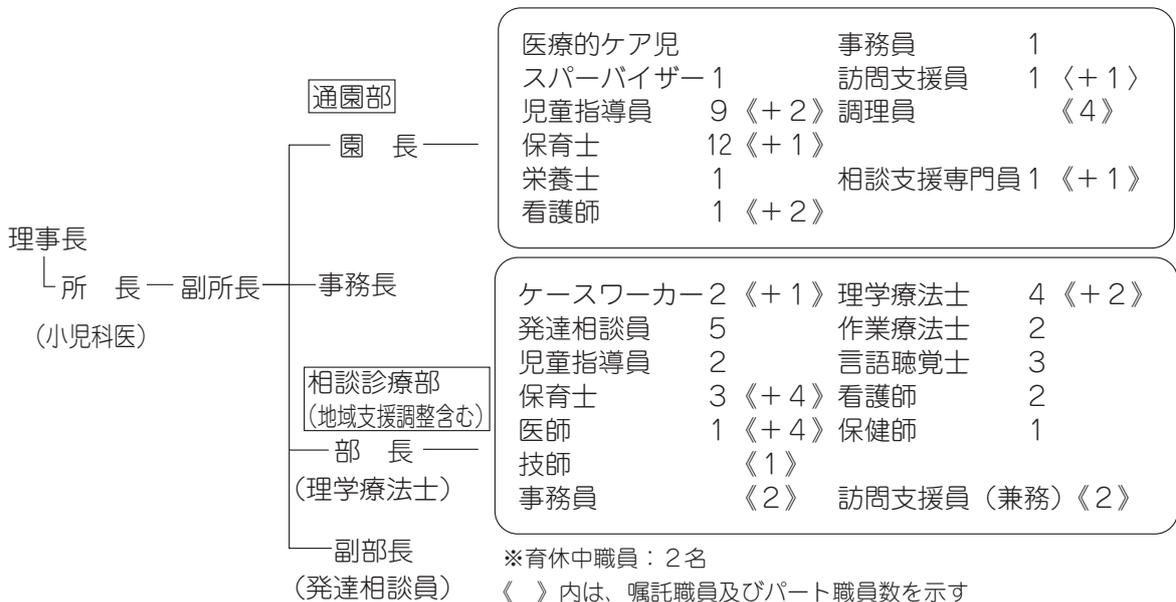
〈参考〉

人口、面積（2024年10月）

	名古屋市	千種区	守山区	名東区	3区合計
人口（人）	2,331,264	165,482	176,264	162,050	503,796
児童					
0～5歳	97,625	6,347	8,720	7,524	22,591
人口					
0～17歳	318,659	22,236	29,543	26,319	78,098
面積（km ² ）	326.5	18.18	34.01	19.45	71.64

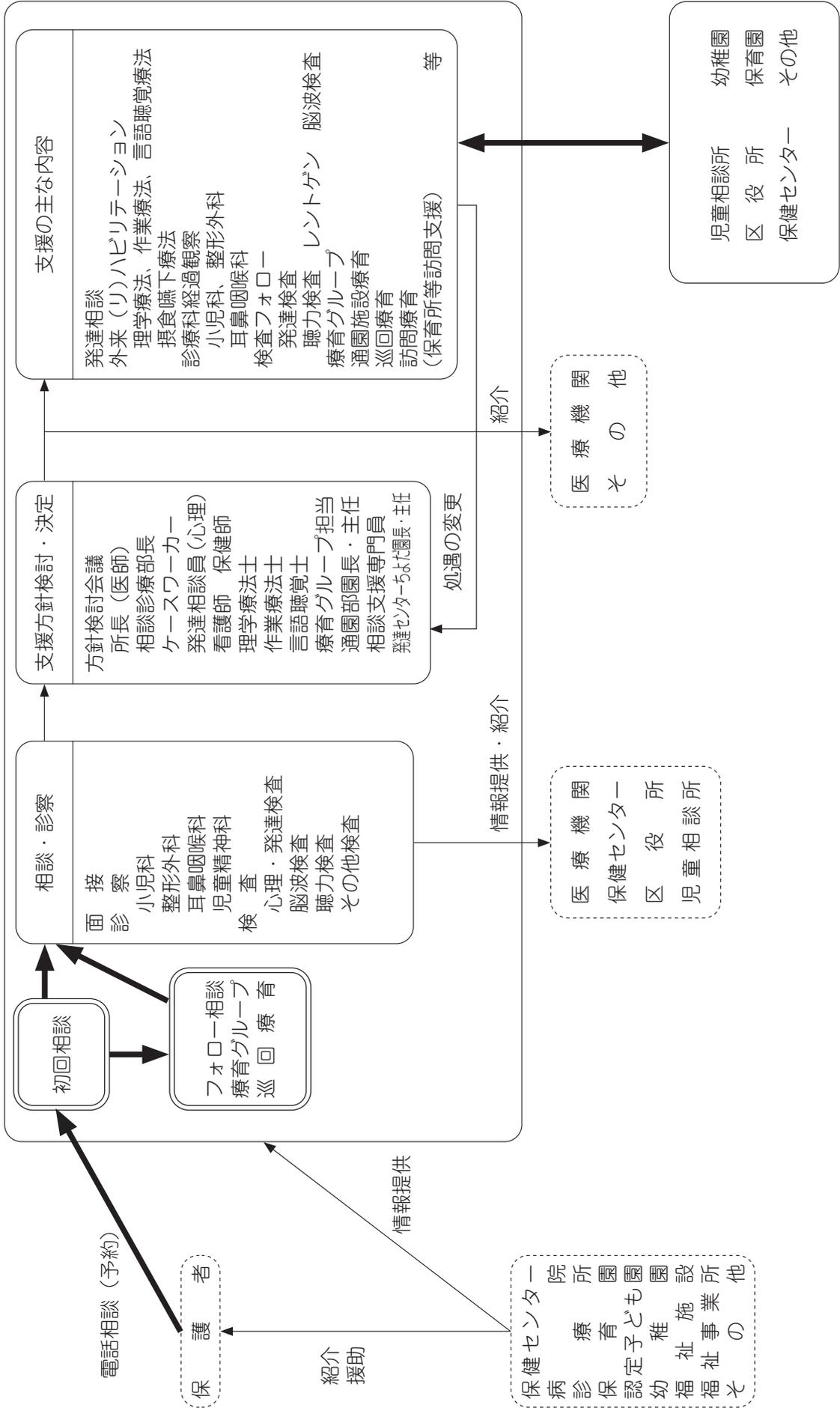


(3) 組織・職員体制 (2025年3月末現在)



(4) 相談の流れ

東部地域療育センターぽけっと



第2 地域支援調整事業

1 初回相談

表2-1 初回相談の区別・年齢別実施状況

(単位：人)

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計	%
千種区		5	43	48	22	21	3	142	26.9
守山区	1	9	64	67	25	17	3	186	35.2
名東区	1	15	65	62	33	15	6	197	37.3
その他					3			3	0.6
合計	2	29	172	177	83	53	12	528	100

表2-2 初回相談の所属別実施状況

(単位：人)

区別	計	%
保育園	250	47.3
在宅	144	27.3
幼稚園	82	15.5
こども園	38	7.2
その他	14	2.7
合計	528	100

表2-3 初回相談の主訴別実施状況

(単位：人)

主訴症状	計	%
ことば	251	47.5
行動	168	31.8
集団適応	95	18
運動発達	8	1.5
生活習慣	4	0.8
その他	2	0.4
合計	528	100

表2-4 初回相談の紹介別実施状況

(単位：人)

紹介機関分類	計	%
守山保健センター	64	12.1
名東保健センター	65	12.3
千種保健センター	56	10.6
保育園	154	29.2
こども園	21	4
幼稚園	37	7
医療機関	31	5.9
インターネット	23	4.4
家族	25	4.7
区役所	18	3.4
知人	9	1.7
他療育センター	4	0.8
いこいの家	3	0.5
その他	18	3.4
合計	528	100

表2-5 初回相談の方針

(延べ件数、複数方針あり)

(単位：件)

方針	計
初診	398
療育グループ	139
継続相談	66
巡回	21
他機関紹介	7
適宜フォロー	13
終了	6
合計	650

2 療育グループ

(1) 就園前グループ

【療育目標】

- ・親子でさまざまなあそびに出会い、「すき」「たのしい」あそびを広げていく。
- ・お友だちと一緒に過ごす経験を通して、お友だちとの関わりを少しずつ広げていく。
- ・親子がほっとでき、子育てに向かう力になるような支援をしていく。
- ・生活リズムを整え、健康な身体作りをすすめる。
- ・食事・排泄・着替えなどの基本的な生活習慣の自立を家庭とともに捉えあう。
- ・子どもの要求を大切に、興味を広げ、意欲的に生活し、あそぶ力を育てる。
- ・姿勢・運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなどの感覚への働きかけを大切にする。

【2024年度の特徴】

□全体的な利用者の状況

○年度末における当センターの管理数は前年度比減。考えられる理由は下記のとおり。

- ① 2024年10月より「かぼちゃグループ（発達センターちよだ管理）」を発足し、「ひよこグループ」在籍児のうち守山区在住児を移行させた。
- ② 年度末に当センターの管理数は198名（うち途中終了58名）で、昨年度比29名減となった。

○運動遅れ児グループ（ひよこ、すずめ、かぼちゃ、こあら）の管理数は増加傾向。特徴は下記のとおり。

- ① 低月齢の運動遅れ児対象とした月1回のこあらグループは、累計17名在籍で過去最多。
- ② 守山区在住児が最も多い。
- ③ 医療的ケア児は全グループ合計で7名。
- ④ こあらグループは土曜日開催の為、平日は家庭都合で参加の難しい訪問療育の対象児も在籍。

○就園希望先別グループの編成

- ・「かばグループ（通園、保育所発達援助希望）」の在籍児は横ばいだが、通園部入園希望児は増。
- ・「ぱんだグループ、れんこんグループ（幼稚園入園希望）」在籍児は増。ぱんだグループを10月より隔週へ

○保育所と並行で通われる家庭の増加（並行てくてく）

- ・対象児のほとんどの処遇方針が「保護者の育児支援(育児不安、子どもへの対応を知る)」。
- ・診察時の方針決定以外には「診察後に保護者から療育希望」「発達相談場面での希望」など。
- ・「(本児もしくは次子の)育児休業中のため参加希望」も多い。
- ・「所属園との連携」は基本的には実施していないが、保護者と保育所の関係性が不安定

であったケースについて、双方と確認し仲介を行なった。

- ・診察において「通園妥当」と進路について助言指導が必要であった児のうち、75%が次年度通園希望となった。
- ・コンスタント（毎週～月2回程度）に平日参加されたのは63%。
- ・参加回数より欠席の方が多く家庭は30%。欠席理由のほとんどは保護者の就労であり、「目的の相違」は5%（1名）。

○次年度進路選択の状況

- ・通園部の入園希望は昨年度比増。「かばグループ」の82%、「ひよこグループ」も47%が通園部への入園希望であった。
- ・保育所について、入園決定時期が幼稚園と比較して遅いこと、希望園への入園保証がないことで敬遠した方が増加した印象。
- ・児童発達支援事業所が併設・連携されている幼稚園やこども園が増加。「幼稚園で療育（児発）も受けられる」「児発の先生が園の様子を見たり保育補助にも入ってくれる」として希望される方がいた。
- ・全グループにおいて、育休中の参加者が前年比さらに増えた。新3歳児だけでなく新1歳児、2歳児として保育所に入園希望の方も多く、入園前の保育所への相談や、入園前に当センターの受診勧奨をするケースが年々増加している。

□保育・保護者支援のふりかえり

○少人数保育の実施

- ・「進路説明会」「通園見学会」実施時に保育室をパーティションで分割し、「親子分離チーム」と「親子あそびチーム」に分けて少人数保育を行った。職員体制は2～3人になるが、親子の数が減ることで子どもの捉えと親との共有が深めやすかった。
- ・大人数（およそ10名以上）の参加者になるとかみつきや衝突などが起きやすいなど、安全配慮が十分に行き届かなくなることが重なった。上記の少人数保育に倣い、「1歳児チームと2歳児チーム」に分けて保育した。また、「かばグループ」も在籍が17名となり、丁寧な対応をねらいに「全体保育」と「少人数保育」の双方を計画的に実施した。

○保護者交流会の実施

- ・保護者とスタッフとの話だけでなく、保護者同士の交流も子育て支援の大きな役割として考え、計画的に親子分離の機会を設けた。
- ・「ひよこグループ」では保護者の交流を深めることをねらいに、呼名時にテーマを決めて「ひとことトーク」の時間を取り入れ、保護者に話してもらった（“好きな食べ物”“リフレッシュ方法”など）。
- ・受入グループでは親子分離で「進路説明会」を実施。それ以外のグループでは年度末に親子分離で「療育グループに通ってよかったこと、新生活に向けての期待や不安」などをお話し頂いた。

○年度末の対応について

- ・年度末の対応（引継ぎ表、懇談）について、昨年度までの実施方法と変更した。
- ・昨年度まで保育所発達援助で入園予定者には、引継表を記入し個別懇談でお渡ししていた。今年度は、保護者自身が子どもの今の姿を振り返り、就園先に伝える力をつける／伝える機会をもってもらうことをねらいとし、全グループの保護者に「療育グループのまとめ」を記入・提出いただいた。スタッフからもコメントを記入し、保育所・幼稚園への報告資料のひとつにして頂けることをお伝えした。

□会議等

○就園前グループパート会

- ・月2回程度、就園前グループスタッフにて予定や保育方針等の確認。

○発達センターちよだ合同パート会

- ・発達センターちよだの療育グループ担当者と情報共有、保育方針等の確認。

○実働者会議

- ・年4回、療育グループに関わるすべての職員で会議を実施。テーマを「グループ概要の確認」「就園グループをよりよいものにするため、必要だと思うことの交流」「並行てくてく情報共有」「今年度の進路指導について難しいと感じたこと」「多職種として関わり、改善があるとよいと思うこと」とした。
- ・「受入グループチーム」「ひよこすずめチーム」「進路別グループチーム」に分かれることで、多職種同士の意見を聞き合う機会となり有意義であった。

○嘱託職員会議

- ・年度末に、嘱託職員とともに総括と次年度方針確認を行なった。

【就園前グループ実施状況】

表 2 - 6 就園前グループ実施状況

(東部地域療育センターぼけっと及び発達センターちよだ管理の全療育グループ一覧)

	対象	グループ (管理)		場所	開始	スタッフ① (常時参加の職員)	スタッフ② (定期参加の職員)
受入グループ	守山区在住	れたす (ぼけっと)	月	ちよだ	2024.4	保育士・指導員3 嘱託職員1	心理士：1/月
	千種区・名東区在住	くま (ぼけっと)	火	ぼけっと	2024.4	保育士・指導員3 嘱託職員2	心理士：2/月
		しまうま (ぼけっと)	金	ぼけっと	2024.4	保育士・指導員2 嘱託職員2	心理士：2/月
	志段味地区	とまと (ちよだ)	水	エコビレッツ	2024.4	保育士・指導員2 嘱託職員1	
就園希望先別グループ	通園・保育所 発達援助入園希望	かば (ぼけっと)	水	ぼけっと	2024.4	保育士・指導員2 保健師1 嘱託職員2	心理士：2/月 OT：1/月
		きゃべつ (ちよだ)	木	ちよだ	2024.4	保育士・指導員1 嘱託職員2	
	幼稚園入園希望	れんこん (ぼけっと)	金	苗代コミセン	2024.10	保育士・指導員2 嘱託職員1	
		ばんだ (ぼけっと)	水	清明山集会所	2024.4 10/16～ 隔週	保育士・指導員2 嘱託職員1	ST：1/月
運動遅れ	医ケア・重心 (主に未歩行児)	ひよこ (ぼけっと)	木	ぼけっと	2024.4	保育士・指導員2 保健師1 嘱託職員2 PT①1	PT②：2/月 PT③：1/月 CW：2/月
	運動発達遅れ (千種区・名東区)	すずめ (ぼけっと)	月	ぼけっと	2024.5	保育士・指導員2 保健師1 嘱託職員1	心理士：1/月 OT：1/月
	運動発達遅れ (守山区)	にんじん (ぼけっと)	木	ちよだ	2024.4～ 9月末	保育士・指導員2 嘱託職員1	
	守山区在住 運動、重心	かぼちゃ (ちよだ)	火	ちよだ	2024.10	保育士・指導員2 保健師1 嘱託看護師1	PT：2/月
月1回	初診前並行	ぞう (ぼけっと)	土	ぼけっと	2024.4	保育士・指導員3 心理士1 CW1	
	低月齢運動遅れ	こあら (ぼけっと)	土		2024.4	保育士・指導員2 保健師1	
他	待機児グループ	つくしんぼ (ちよだ)	火金	ちよだ	2024.4	保育士・指導員2 嘱託職員1	PT：不定期

注) スタッフ配置は親子の状況等により変動あり。本表のスタッフ配置は年度末状況。

表2-7 就園前グループの区別年齢状況表 (単位：人)

区	0歳児	1歳児	2歳児	計
千種区	5 (0)	18 (1)	41 (5)	64 (6)
守山区	10 (7)	21 (4)	42 (24)	73 (35)
名東区	10 (0)	30 (3)	39 (14)	79 (17)
合計	25 (7)	69 (8)	122 (43)	216 (58)

注) (1) 年齢は学年齢である
 (2) () 内の数字は、途中終了児である

表2-8 就園前グループの障害種別状況表 (単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	計
自閉症		7 (0)	20 (4)	27 (4)
自閉症+知的障害		6 (1)	23 (5)	29 (6)
知的障害	5 (2)	7 (0)	11 (6)	23 (8)
言語発達遅滞		3 (0)	24 (10)	27 (10)
肢体不自由	1 (0)			1 (0)
肢体+知的障害				0 (0)
重心			2 (0)	2 (0)
その他保健	13 (5)	20 (4)	7 (3)	40 (12)
未決定	1 (0)	3 (0)	3 (1)	7 (1)
未初診	5 (0)	23 (3)	32 (14)	60 (17)
合計	25 (7)	69 (8)	122 (43)	216 (58)

注) (1) 年齢は学年齢である
 (2) () 内の数字は、途中終了児である

表2-9 就園前グループの就園先状況 (単位：人)

区分	0歳児	1歳児	2歳児	計
通園		14 (0)	14 (0)	28 (0)
保育園	6 (1)	14 (3)	32 (13)	52 (17)
幼稚園			49 (7)	49 (7)
子ども園				0 (0)
その他	1 (1)	4 (2)	13 (13)	18 (16)
グループ継続	13 (0)	33 (0)	3 (0)	49 (0)
未開始		1 (0)	1 (0)	2 (0)
ちよだ移行	5 (5)	3 (3)	10 (10)	18 (18)
合計	25 (7)	69 (8)	122 (43)	216 (58)

注) (1) 年齢は学年齢である
 (2) () 内の数字は、途中終了児である
 (3) 「その他」は転居および年度末転居予定
 (4) 「ちよだ移行」は、年度途中で発達センターちよだが管理する療育グループへ移行した児
 ※昨年度までは「ちよだ移行児」は計上せず。

(2) 並行グループ

【例年にならう事柄】

- ・幼稚園や保育園での集団生活が難しいなど子どもが園生活に困難を抱えている、また子どもへの関わり方が難しいなど保護者が子ども理解を深めることを目的にしたケースを対象とし、当センターの小児科診察で保護者と目標を確認し開始する。
- ・グループ分けは、グループごとに決められた年齢設定にそって、保護者に通う曜日を選択して頂いた。
- ・所属園の先生・保護者・スタッフの3者で連携をとる「懇談会」「見学会」の実施。(表2-14参照)
- ・保護者交流会を10回中3回程度実施した。テーマは「自己紹介」「子どものかわいいところ、困っていること」「並行グループに通ってみての感想」「就学に向けて」など親子の状況から検討、選択した。

【2024年度特徴的な事柄】

- ・前年度までは、診察での方針決定からグループ開始までの期間の短縮を目的に「隔週グループ」「毎週グループ」双方を実施してきた。しかし2024年度は、十分な保育準備及び丁寧な保護者支援に向けての準備の時間を確保するため、隔週グループのみの実施とした。
- ・グループ参加の取り下げにより、前半期3名のみグループが発生した。小児科診察にて並行グループのオーダーと児童発達支援事業所の推奨があり、他の療育や習い事を優先したいという理由や、進級にあたって所属園のカリキュラムの変更による曜日の都合が合わなくなったという理由による取り下げが多く発生した。また、「顔合わせの会(通称0回目面談)」にて並行グループの趣旨と保護者の思いに差異があり、開始後取り下げに至ったケースもあった。
- ・小児科医師が並行グループに参加する子どもたちの実情や活動内容を見学し、対象児の練り直しを行なった。
- ・グループでのねらいを親子で積み重ねるため、対象児と保護者の2名(きょうだいの付き添いなし)での参加をお願いしたが、都合がつかず、弟妹参加も数件あった。
- ・前年度の総括で、保護者がより主体的に並行グループに参加いただくためのプログラムの見直しが課題となった。そこで、「顔合わせの会(通称0回目面談)」として、1~10回のグループ活動の前に個別面談の回を実施した。
- ・「顔合わせの会」を実施する事で、並行グループの目的や大切にしたいことを事前に保護者と共有することができた他、子どもの自由あそびの様子や他児との関わりの様子などを捉える事ができた。
- ・担当職員全員で並行グループの役割や内容を検討する「実働者会議」を4回実施。各グループの親子の情報共有やケース検討、あそび展開について、次期に向けての体制、書式活用等を話し合った。
- ・並行グループ各リーダーを主とした並行グループパート会議を月1回実施。パート会議の中で、並行グループにおける「あそび」の分類を行ない、親子や子ども集団の様子をみながら課題設定することを確認した(表2-15参照)。

【療育目標】

- ・子どもが、小集団の中でお友達とやりとりする経験を積む
- ・子どもが、小集団の中で自分の気持ちを表現する経験を積む
- ・保護者が、集団での子どもの様子を捉える
- ・保護者が、親子で楽しく遊ぶ経験を積む
- ・保護者が、子どもとの接し方をスタッフとともに考える
- ・家、園、グループでの子どもの姿をとらえあい共有し、集団生活でも力を発揮できるようにする
- ・保護者同士が、子どもを通して交流し、横のつながりをつくる

表 2 - 10 並行グループの実施状況

(単位：人)

	実施状況	対象児	4 歳児	5 歳児	計	職員体制
前半期	まつぼっくり 4 月～9 月 隔週火曜日	5 歳児		7	7	保育士 2 指導員 1 心理士 1
	どんぐり 4 月～9 月 隔週火曜日	4 歳児	6		6 (1)	保育士 2 指導員 1 心理士 1
	くり 4 月～9 月 隔週木曜日	5 歳児		7	7	保育士 2 指導員 2 心理 1
	たけのこ 4 月～9 月 隔週木曜日	4 歳児	3 (1)		3 (1)	保育士 1 指導員 1 訓練士 1
後半期	まつぼっくり 10 月～3 月 隔週火曜日	5 歳児		9	9	保育士 2 指導員 2 心理 1
	どんぐり 10 月～3 月 隔週火曜日	4 歳児	8		8	保育士 2 指導員 1 心理士 1
	くり 10 月～3 月 隔週木曜日	5 歳児		8 (1)	8 (1)	保育士 2 指導員 1 心理士 1
	たけのこ 10 月～3 月 隔週木曜日	4 歳児	10 (1)		10 (1)	保育士 2 指導員 1 訓練士 2
計			27 (2)	31 (1)	58 (3)	

注) () は途中終了児である

表2-11 並行グループ障害種別状況 実人数 (単位：人)

障害種別	4歳児	5歳児	計
自閉症	11 (1)	16 (1)	27 (2)
自閉症+知的障害	3	2	5
知的障害	3		3
言語発達遅滞	8 (1)	11	19 (1)
その他	2	2	4
合計	27 (2)	31 (1)	58 (3)

注) 年齢は学年齢である。
()は途中終了児である。

表2-12 並行グループ区別状況 (単位：人)

区	4歳児	5歳児	計
千種区	6	8	14
守山区	12	8	20
名東区	9	15	24
合計	27 (1)	31 (2)	58 (3)

注) 年齢は学年齢である。
()は途中終了児である。

表2-13 並行グループ在籍児所属園 (単位：人)

区別	4歳児	5歳児	計
公立幼稚園	1	3	4
民間幼稚園	6	10	16
公立保育所	4	6 (1)	10 (1)
民間保育園	12 (1)	7	19 (1)
こども園	3 (1)	4	7 (1)
その他	1	1	2
合計	27 (2)	31 (1)	58 (3)

注) 年齢は学年齢である。
()は途中終了児である。

表 2 - 14 懇談会参加状況

区 別	計
公 立 幼 稚 園	2
民 間 幼 稚 園	9
公 立 保 育 所	5
民 間 保 育 園	11
こ ど も 園	3
そ の 他	1
合計	31

注) 複数回参加の園あり

表 2 - 15 あそびの段階

あそびの段階 (①~⑤)	例
①年齢よりもやさしい遊びを通して発散して自由な自己表現ができる場にする	米粉粘土あそび
②分かりやすいルールのある遊びをする (親子で)	ダンボールあそび
③簡単なルールのある遊びを通して周りの友達を意識していく (親子やお友だちとペア活動をおこなう)	黒ひげ危機一髪
④より複雑なルールのある遊びを通して意識を広げる	フルーツバスケット
⑤自分の意見を出したり聞いたりする (話し合い、みんなで作り上げる)	こども会議

3 巡回療育 訪問療育 施設支援

(1) 巡回療育

【巡回療育の内容】

保育園、認定こども園、幼稚園、その他の保育事業所、小学校、特別支援学校等に、当センターのスタッフが出向いて集団での児童の様子を見学した。児童が集団の中で生活しやすくするための環境調整や支援方法、療育方針等を先生方と検討した。

【巡回療育の対象】

巡回の対象は、当センターの受診歴がある児童（巡回）、初診前相談を受けた児童（初診前巡回）、通園施設から就園や就学をした児童および、エリア内の通園施設を対象としている。

【件数】

全体の件数は152件であった。内訳や訪問スタッフについては以下の表に表す。

巡回療育

表2-16 巡回療育の実施件数

(単位：件)

区 別	千種区	守山区	名東区	その他	計
保 育 園	10	31	16	4	61
こ ども 園	1	5	2		8
幼 稚 園	10	10	4	3	27
小 学 校		1	2		3
特別支援学校		1		2	3
そ の 他	5	20			25
計	26	68	24	9	127

表2-17 巡回療育の職種別延べ人数

(単位：人)

ケース ワーカー	発達 相談員	理学 療法士	作業 療法士	言語 聴覚士	グループ 保育士	グループ 指導員	通園 保育士	通園 指導員	その他	計
15	68	15	26	47	34	9	20	7	2	243

表2-18 巡回療育の障害種別状況

(単位：人)

障害種別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
知 的 障 害		2	2	5	4	5	1	19
自 閉 症			3	12	15	2	1	33
自閉症+知的障害			5	9	8	4		26
肢 体 不 自 由							5	5
肢体不自由+知的障害		1					1	2
言 語 発 達 障 害 等			2	12	8	6	1	29
重 症 心 身 障 害					4			4
そ の 他			1	3		2	2	8
計	0	3	13	41	39	19	11	126

初診前巡回

表 2 - 19 初診前巡回の実施件数

(単位：件)

区 別	千種区	守山区	名東区	その他	計
保 育 園	4	8	3		15
こ ども 園		2	2		4
幼 稚 園	1	2	1	1	5
小 学 校					0
特別支援学校					0
そ の 他			1		1
計	5	12	7	1	25

表 2 - 20 初診前巡回の職種別延べ人数

(単位：人)

ケース ワーカー	発達 相談員	作業 療法士	言語 聴覚士	グループ 保育士	グループ 指導員	通園 保育士	その他	計
9	16	1	3	16	2	3		50

表 2 - 21 初診前巡回の学年齢別状況 (単位：件)

0 歳 児	0
1 歳 児	0
2 歳 児	4
3 歳 児	13
4 歳 児	4
5 歳 児	4
6 歳 児	0
計	25

【巡回・初診前巡回満足度アンケートの実施】

152 件中 68 件にお答えいただいた。各施設からの意見をもとに、巡回依頼から実施までの期間や訪問内容など、円滑な運営に反映していく。

(2) いこいの家事業への支援指導

千種区、守山区の児童館で開催されている「いこいの家」事業に月1回、個別相談を実施した。名東区のいこいの家でも個別相談を年3回実施した。

また、グループスタッフ、言語聴覚士、作業療法士が保護者向けの学習会を実施した。

表2-22 いこいの家事業への支援実施状況

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個別相談 人数	5	6	2	4	8	3	4	10	8	6	9	11	76
学習会 参加人数				9			16				15		40

表2-23 いこいの家事業への職種別延べ人数

(単位：人)

ケースワーカー	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	グループスタッフ	計
12	3	0	2	2	2	21

(3) 訪問療育指導

【目的】

当センターでの療育が困難な家庭や社会との接点のない家庭に訪問し、家庭における障害児への療育的関わりと保護者支援等を行なう。

【対象となる項目】

2024年度は対象を以下のいずれかの項目に該当する家庭への訪問療育をおこなってきた。

- ①家庭の事情や子どもの体調などでグループに通えていない
- ②感染の理由で集団参加が難しい
- ③園にもデイにも行けておらず、親子が社会との接点がない

<グループ、ハビリスタッフより>

グループやりハに通っているが、家庭での状況がとらえにくい→単発的な訪問を行い、状況を把握する。

【対象児】

- ①2名は継続児は2名。

1) 5歳児：2022年度開始 2024年度で就学のため終了。

2) 2歳児：2023年度開始

いずれも、親子の状況から幼稚園／保育園や通園／グループなど社会とのつながりを作ることが困難な家庭。

- ②新規児は5月開始2歳児1名、1月開始1歳児1名、2月開始0歳児1名だった。

【対象児の状況】

- ①継続児の5歳児については、就学後のフォロー先として、後半期は子ども応援委員会と連携をとって訪問療育をおこなった。

- ②ひよこグループ、すずめグループへの単発的な家庭訪問を行ったことで、生活環境やグループでは聞き取れなかった保護者の思いを把握することができた。

表2-24 訪問療育の実施状況

(単位：件、人)

①訪問療育対象児

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象人数	2	3	3	3	2	3	3	3	3	4	6	3	38
延べ件数	5	5	6	7	6	6	5	4	5	7	9	6	71

②ひよこグループ、すずめグループの家庭訪問

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象人数			4	2	3	2	1		1	2			15
延べ件数			4	2	3	2	1		1	2			15

訪問療育 / 家庭訪問に携わった職種は、保育士、児童指導員、保健師、ケースワーカーである。

(4) 施設支援事業

【施設支援の内容】

訪問型学習会：

施設の主訴に合わせたテーマの話題提供と事例検討会を通し、施設スタッフの潜在的な知識・技術の引き出しと、施設内での支援体制の構築をサポートする。

公募の対象は保育園・認定こども園・その他の保育事業所と、24年度は幼稚園にも呼びかけを広げた。公募より申し込みのあった施設に対して、打ち合わせや振り返りを含めて、1園あたりのべ3回訪問した。

【件数】

全体の件数は82件であった。内訳や訪問スタッフについては以下の表に表す。

①訪問型学習会

表2-25 訪問型学習会のべ訪問数

(単位：件)

区別	千種区	守山区	名東区	計
保 育 所	9	28	31	68
認 定 こ ど も 園	3	5	3	11
小規模児保育事業				
家庭的保育事業				
幼 稚 園		3		3
計	12	36	34	82

表2-26 訪問型学習会の職種別延べ人数

(単位：人)

発達相談員	作業療法士	言語聴覚士	保育士	ケースワーカー	計
39	31	19	78	1	168

4 関係機関連携

(1) 関係機関への職員派遣

表2-27 関係機関への職員派遣

派遣先	内容	派遣職員	派遣頻度	実施回数
千種保健センター	親子教室	ケースワーカー	月1回	12回
守山保健センター	親子教室	ケースワーカー	月1回	12回
守山保健センター 志段味分室	親子教室	発達相談員	月1回	12回
名東保健センター	親子教室	発達相談員	月1回	12回
名東保健センター	就学のつどい	発達相談員	年2回	2回

(2) 連絡調整会議

表2-28 関係機関との連絡調整会議

会議等	開催日	内容	構成メンバー
保健センター ・ケース連絡会 ・療育センター 見学会	千種	2024.11.8 関係機関連絡会	保健センター 東部地域療育センターぼけっと
	守山	2024.4.25 ぼけっと見学会 2024.11.5 関係機関連絡会	保健センター 発達センターちよだ 東部地域療育センターぼけっと
	名東	2024.4.25 ぼけっと見学会 2024.11.1 関係機関連絡会	保健センター 東部地域療育センターぼけっと
千種区療育連絡会 (事務局会議2回実施)	2024.7.29	事業説明 千種区における相談	民生子ども係 保健センター 千種エリア支援保育所 区内保育施設(保育園・幼稚園等) さわらび園 東部地域療育センターぼけっと
	2024.12.6	学習会「発達が気になるお子さんへの支援」 ケース交流会 講師：安藤久美子先生	民生子ども係 保健センター 千種エリア支援保育所 区内保育施設(保育園・幼稚園等) さわらび園 東部地域療育センターぼけっと
名東区発達援助研究交流会	2024.8.23	各機関事業説明 事例検討会	エリア支援支援保育所 民生子ども係 保健センター 東部地域療育センターぼけっと
サポートチーム会議	2024.4.25、8.30、10.16		児童相談所 区役所 保健センター 病院 訪問看護ステーション 相談支援事業所 所属園・学校等 発達センターちよだ 東部地域療育センターぼけっと等 ケースに応じた関係機関が参加
守山発達支援部会	2024.5.23、7.22、8.2 講習会 2025.2.4 事例検討会		民生子ども課 区役所志段味支所 保健センター エリア支援支援保育所 発達センターちよだ 東部地域療育センターぼけっと 区内保育園、幼稚園、子育て支援拠点
千種区自立支援協議会 学習会	2025.1.22 学習会		基幹支援センター さわらび園 東部地域療育センターぼけっと 各事業所
エリア支援学習会	2024.6.6 千種区 2025.1.29 守山区		エリア支援保育所 小規模保育園 保健センター 東部地域療育センターぼけっと

第3 発達相談事業

1 新規相談

表3-1 新規相談の年齢・区別状況 (単位：人)

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	計
千種区	1	15	32	45	18	19	6		136
守山区	8	14	54	64	45	32	8	1	226
名東区	5	14	43	59	36	25	9		191
担当区外(転入予定)						2			2
市外(転入予定)									0
計	14	43	129	168	99	78	23	1	555

注) 年齢は初診時の満年齢である。

表3-2 中央療育センター・地域療育センターの相談歴 (単位：人)

原管理	千種区	守山区	名東区	担当区外	計
中央療育センター	2		1	2	5
北部地域療育センター	2	1	1		4
西部地域療育センター	1		1		2
南部地域療育センター	1	2			3
計	6	3	3	2	14

表3-3 新規相談の主訴別状況 (単位：人)

主訴症状	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	計
言語発達		3	55	69	24	10	2		163
精神発達			4	6	7	3	2		22
運動発達	10	15	2	1	1	2			31
全体発達	4	23	43	55	30	36	10		201
性格行動		1	25	37	37	26	8		134
その他		1				1	1	1	4
計	14	43	129	168	99	78	23	1	555

注) 年齢は初診時の満年齢である。

表3-4 新規相談のセンターへの紹介経路

(単位：人)

紹介機関分類	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	計
保健センター	6	12	65	90	29	7	2		211
医療機関	6	18	23	5	2	4	2		60
中央療育センター		1		1					2
北部地療センター						1	1		2
南部地療センター				1	1	1			3
西部地療センター		1							1
児童相談所			1	1	2	1			5
福祉事務所						1	1		2
児童福祉施設			2	2	3	1			8
保育園		1	19	38	28	25	8		119
幼稚園			1	3	11	14	5		34
こども園			2	11	12	4	1		30
いこいの家			2	1					3
近隣知人			2	4	3	3			12
家族親戚		4	5	6	4	10	1	1	31
その他	2	6	7	5	4	6	2		32
計	14	43	129	168	99	78	23	1	555

注) 年齢は初診時の満年齢である。

表3-5 新規相談の障害種別状況

(単位：人)

障害種別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	計
知的障害	3	13	22	24	7	8	2		79
自閉症+知的障害		1	34	27	7	5	2		76
自閉症		1	29	50	45	22	9		156
肢体不自由	1	2							3
知的障害+聴覚障害									0
知的障害+視覚障害									0
肢体不自由+知的障害									0
肢体不自由+聴覚障害			1						1
重心		1	1			1			3
言語発達障害等		2	34	60	33	39	9		177
性格行動				1					1
聴覚障害									0
視覚障害									0
保健	9	22	3	5	3	1	1	1	45
未決定	1	1	5	1	4	2			14
計	14	43	129	168	99	78	23	1	555

注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。

(2) 言語発達障害等には、知的境界域、ADHDが含まれる。

(3) 未決定は、知的正常域、定型発達である。

表3-6 新規相談の処遇方針作成状況

(単位：人)

処遇方針		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	計
経過フォロー	小児科	9	40	127	161	83	58	4		482
	整形外科	11	32	11	5	1	2			62
	耳鼻科									3
	発達相談	6	28	114	141	75	46	5		415
PT訓練		11	25	4	2	1	2			36
OT訓練				1	4	7	4	3		19
ST訓練					2	4	9			15
摂食機能訓練			5			1	1			7
就園前グループ		11	19	65	21	2				118
並行グループ						16	12	4		32
聴力検査			3	47	36	10	7			103
通園施設方向				13	11					24
巡回療育指導					10	16	3	1		30
訪問療育指導			1							1
他機関紹介				1		5	4	2		12
必要時フォロー		3	4	3	6	12	21	19		68
特にフォローなし										
その他			12	37	41	10	8	3		111
いこいの家紹介										
計		51	169	423	440	243	177	41	0	1538

- 注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。
(2) 新規相談時に処遇を作成した数である。
(3) 実際に処遇を開始した数とは異なる。

【2025 年度通園入園希望者年齢・区別状況】

(単位：人)

区	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
千種区		8	10			18
守山区	2	8	10			20
名東区		8	5	1		14
計	2	24	25	1	0	52

注) 年齢は 2025 年度の新学年齢である。

【2025 年度通園入園希望者進路内訳】

(単位：人)

進路先	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
東部地域療育センターぼけっと		12	14	1		27
発達センターちよだ		5	10			15
さわらび園		3	1			4
ちよだ待機児グループ	2	4				6
計	2	24	25	1	0	52

注) 年齢は 2025 年度の新学年齢である。

【2025 年度ぼけっと・ちよだ・さわらび園入園児の 2024 年度の所属】

(単位：人)

	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
療育グループ	2	21	21			44
保育園			4			4
ちよだ待機児グループ		3				3
児童発達支援事業所				1		1
計	2	24	25	1	0	52

注) 年齢は 2025 年度の新学年齢である。

2 発達検査および発達相談

(1) 新規相談児童の発達相談

- ・新規相談におけるアセスメントでは、発達検査と併せて行動観察や、保護者からの聞き取りをおこなった。

表3-7 初診の年齢・区別状況（発達相談）

（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	8歳	計
千種区	1	15	32	45	18	19	6		136
守山区	8	14	54	64	45	32	8	1	226
名東区	5	14	43	59	36	25	9		191
担当区外（転入予定）						2			2
市外（転入予定）									0
計	14	43	129	168	99	78	23	1	555

注）年齢は初診時満年齢である。

(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

- ・継続相談とは発達相談員が担当する初診後の経過相談である。
- ・発達の再評価や保護者の相談を基本としながら、必要に応じてセンター内職員や関係機関と連携した。

表3-8 継続相談児のフォロー状況

（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	計
千種区		7	18	63	82	84	48	1	303
守山区		8	28	87	159	165	71	3	521
名東区		3	25	57	86	138	66	3	378
担当区外					1		1		2
市外			1	1		1	1		4
計	0	18	72	208	328	388	187	7	1208

注）（1）年齢は学年齢である。

（2）延べ人数である。

（3）保護者のみの相談も含まれる（延べ16件）

（4）担当区外、市外は、初診時の居住区であり、継続相談では担当区に居住している。

表3-9 継続相談児の年齢別検査結果

(単位：人)

検査数値	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	計
20以下		3	2		3	5	1	14
21～35	1	1	10	4	9	13		38
36～50	1	6	6	22	15	18		68
51～75	3	8	30	45	56	50	2	194
76以上	1	8	46	125	164	209	4	557
計	6	26	94	196	247	295	7	871

注) 年齢は学年齢である。

表3-10 継続相談児の障害種別検査結果

(単位：人)

障害種別	1度	2度	3度	4度	非該当	計
	20以下	21～35	36～50	51～75	76以上	
知的障害	6	18	18	74	16	132
自閉症		1	2	10	260	273
自閉症＋知的障害	1	16	44	91	16	168
知的障害＋肢体不自由		2	1	2		5
知的障害＋聴覚障害			1		1	2
肢体不自由					3	3
肢体不自由＋知的障害			1	1	1	3
重症心身障害	6	1				7
言語発達障害等			1	10	201	212
視覚	1				1	2
保健				6	36	42
適性					1	1
未決定					21	21
計	14	38	68	194	557	871

第4 医療事業

1 診療

- ・小児科
- ・整形外科
- ・耳鼻咽喉科

(1) 小児科

表4-1 小児科の診断区分状況

(単位：人)

診断区分	就学前						小学校		中学生	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	知的障害		17	30	40	52	51	2			192	13.5
	ダウン症候群	4	3	7	3	6	10				33	0.2
	その他の症候群	1									1	0
	てんかん水頭症											0
知的障害 + 肢体不自由												0
肢体不自由 + 知的障害		1	1	3	1	1					7	0.4
自閉症+知的障害		5	13	52	67	73	4		1	215	15.2	
自閉症 (アスペルガー含)		5	52	114	143	199	6			519	36.7	
A D H D ・ L D		1	17	26	35	56	4			139	9.8	
言語発達遅滞 (吃音含)	1	3	15	45	47	57	2			170	12	
脳性麻痺 (CP/二分脊椎等)		1	1	1	2	1				6	0.4	
聴覚障害												0
知的障害 + 聴覚障害												0
視覚障害		1										0
重症心身障害		1	1	1		1					4	0.2
保健 (MD・発達性協調運動障害・心疾患等)		5	3	13	10	10					41	2.9
適性 (正常域・境界域)		1	14	15	19	32					81	5.7
性格行動 (反応性愛着障害・チック等)			1								1	0
その他		1				1					2	0.1
合計	6	45	155	313	382	492	18	0	1	1412	100.0	

注) 実人員は 972 人である。

(2) 整形外科

・整形外科管理数 749 名

表 4-2 整形外科の診断区分状況 (新規)

(単位：人)

診断区分	就学前							小学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳				
知的障害	知的障害				1					1	1.2
	ダウン症候群	1	2			1	1			5	6.0
	脳性麻痺	1		2	1					4	4.8
	中枢性協調障害									0	0
運動発達遅滞	7	30	4	2	1					44	53.0
神経・筋疾患										0	0
骨・関節疾患			3	3	1	2	2	1		12	14.5
後天性要因による運動障害		1								1	1.2
二分脊椎										0	0
その他の先天性障害	3	4		1		1				9	10.8
その他		1	3	1	2					7	8.4
合計	12	38	12	9	5	4	2	1	0	83	100.0

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) その他の先天性疾患には、染色体異常・症候群等を含む。

(3) その他には、歩容異常・外反偏平足・側弯症等も含む。

(4) MD には、WEST 等のてんかん発作の児も含む。

(5) 実人数は 83 人である。

表 4-3 整形外科の診断区分状況 (再診)

(単位：人)

診断区分	就学前							小学生		中学	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害	知的障害			6	4		1	3	1	2		17	2.6
	ダウン症候群	2	11	16	11	15	22	9	11	1	5	103	15.5
	脳性麻痺	1	3	13	7	15	37	12	33	24	1	146	21.9
	中枢性協調障害										3	3	0.5
運動発達遅滞		41	17	5	1		1	1			66	9.9	
神経・筋疾患			2	2	2	1		2	3		12	1.8	
骨・関節疾患		4	48	32	18	27	21	7	5		162	24.3	
後天性要因による運動障害		1	7							2	10	1.5	
二分脊椎								5			5	0.8	
その他の先天性障害	2	10	15	14	8	16	10	21	34	6	136	20.4	
その他		1	1		2	2					6	0.9	
合計	5	71	125	75	61	106	56	81	69	17	666	100.0	

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) その他の先天性疾患には、染色体異常・症候群等を含む。

(3) その他には、歩容異常・外反偏平足・側弯症等も含む。

(4) MD には、WEST 等のてんかん発作の児も含む。

(5) 実人数は 666 人である。

表4-4 整形外科の装具作成状況（年齢別）

（単位：件）

装 具	就 学 前							小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	中学	
座位保持装具			2	1		3			2		8
保 護 帽		1		1	1	2					5
足底板装具		1	20	16	9	20	11	9	8	3	97
短下肢装具			2			1	1	5	3		12
バギー・車いす			1		1	3	2	1	2		10
手 の 装 具											0
股 装 具											0
側弯矯正装具									1		1
長下肢装具											0
歩 行 器						1		1			2
カ ー シ ー ト						2					2
起立保持具											0
計	0	2	25	18	11	32	14	16	16	3	137

注) 年齢は満年齢である。

表4-5 整形外科の装具作成状況（診断別）

（単位：件）

装 具	知的障害				神経・筋疾患	運動発達遅延	骨・関節疾患	その他の先天性疾患	二分脊椎	その他	計
	知的障害	ダウン症候群	脳性麻痺	中枢性協調障害							
座位保持装具			5		1			1			7
保 護 帽			3					2			5
足底板装具	2	23	6			5	47	13	1	1	98
短下肢装具			8					1		2	11
バギー・車いす			5		1			4			10
手 の 装 具											0
股 装 具											0
半 長 靴											0
側弯矯正具								1			1
長下肢装具											0
歩 行 器			1					2			3
カ ー シ ー ト			1					1			2
起立保持具											0
計	2	23	29	0	2	5	47	25	1	3	137

表4-6 整形外科のエックス線写真部位状況

(単位：件)

検査名	就 学 前							小学生		その他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年		
足 部			4	2			1	2		1	10
脊 柱		1	1		2	1	2	2	6	1	16
股 関 節			6		4	1	3	5	5	1	25
下 肢											0
頸 椎				4	1	3		3			11
胸 部											0
頭 部											0
腰 椎							1				1
計	0	1	11	6	7	5	7	12	11	3	63

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) 実人数は63人である。

(3) 耳鼻咽喉科

- ・当センターの耳鼻咽喉科の診療目的は、聴覚の管理や疾病の早期発見、早期治療である。
- ・1日の予約枠は6～7枠に設定した。予約から受診までの期間が長期化していたため、別枠で緊急枠を設定し、特に聞こえに心配があり聴力検査まで長期間待つのは危険だと判断した子どもが早めに検査が出来るような体制をとったが、待機期間が短縮されたためこの枠を使用することはなかった。
- ・耳鼻科初診実人数は149名、継続延べ人数は103名、継続実人数は57名であった。
- ・新規受診の主訴が「ことばが遅い」は121名(81.2%)、「聴力確認希望」は6名(4.0%)「発音が悪い」は5名(3.4%)であった。
- ・ファイバースコープ検査を施行したのは新規4名、継続1名であった。
- ・脳波検査・ABR検査は0件であった。
- ・ST開始に伴う聴力検査は23名であった。
- ・当センターでは自覚的検査と他覚的検査を併用して診断しているが、OAE・ティンパノメトリー機器の故障のため自覚的検査のみで診断をした日が2日間あった。

表4-7 耳鼻咽喉科の診断区分別状況(新規)

(単位:件)

診断区分	就 学 前							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
正 常		3	36	31	14	22	5	111	47.8
難 聴 の 疑 い			12	12	6	2		32	13.8
難 聴			1	1		2		4	1.7
滲出性中耳炎			2	3	1	2		8	3.4
急性中耳炎			2				1	3	1.3
耳垢塞栓		1	22	19	14	8	4	68	29.3
アデノイド増殖症				3		1		4	1.7
粘膜下口蓋裂								0	0
鼻咽腔疾患								0	0
そ の 他			1			1		2	0.9
計	0	4	76	69	35	38	10	232	100.0

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) 複数病名の件数とする。

(3) その他には、右外耳道閉鎖症・左慢性せん孔性中耳炎があった。

表4-8 耳鼻咽喉科の診断区分別状況（再診）

（単位：件）

診断区分	就学前							小学生		中学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
正 常			3	6	13	6	4	1			33	23.7
難 聴 の 疑 い			2	8	5	2			1		18	12.9
難 聴				2	1					1	4	2.9
滲出性中耳炎				5	4	1	1				11	7.9
急 性 中 耳 炎											0	0
耳 垢 塞 栓			2	7	19	10	15	13	5		71	51.1
アデノイド増殖症				1							1	0.7
粘膜下口蓋裂											0	0
鼻 咽 腔 疾 患											0	0
そ の 他					1						1	0.7
計	0	0	7	29	43	19	20	14	6	1	139	100.0

注) (1) 年齢は満年齢である。
 (2) 複数病名の件数とする。
 (3) その他には、右外耳道閉鎖症があった。

表4-9 聴力検査

（単位：件）

区 分		就学前							小学生		中学生	計
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年		
自 覚 的 聴力検査	B O A			1		1						2
	C O R		3	50	49	21	8	2	2			135
	Peep-Show			7	21	22	28	8		1	1	88
	標準純音聴力検査											0
	プレイオーディオ											0
合 計		0	3	58	70	44	36	10	2	1	1	225
他 覚 的 聴力検査	O A E		1	42	37	23	14	1		1	1	120
	ティンパノメトリー		1	7	14	10	7	1			1	41

注) (1) 年齢は、満年齢である。
 (2) 聴力検査は医師の指示のもと、言語聴覚士（ST）が実施している

(4) 診断書等発行

表4-10 診断書等発行状況

(単位：件)

診断書 等	小児科	整形外科	耳鼻咽喉科	計
特別児童扶養手当診断書	60	3		63
障害児福祉手当診断書	2	7		9
身体障害者手帳診断書		27		27
精神障害者手帳診断書	11			11
重心判定書類	6			6
医師意見書	419			419
私学助成診断書	52			52
補装具支給意見書(特例含む)		35		35
治療用具製作指示装着証明書		106		106
その他の診断書		3		3
回答書	71	1		72
紹介状	264	17		281
日常生活用具給付についての意見書		9		9
計	550	181	0	731

2 (リ) ハビリテーション

(1) 理学療法 (PT)

- ・個別治療は医師の指導監督の下、理学療法士 6 名（内、専任 3 名・非常勤 2 名）が施設基準の障害児者リハビリテーションに基づいて行った。
- ・対象は運動障害・運動発達遅滞をもつ子どもが中心である。当センターではボイタ法を取り入れた治療を中心に、子どもの障害状況や家庭の状況にあわせた指導・援助を行っている。治療内容が、子ども・家族の日常生活の改善や向上につながるよう努めている。
- ・2023 年度の新規児は 55 名であった。（表 4-11）
- ・運動発達の遅れに加え、親から睡眠・食事・泣きなどの生活場面での“育児困難”と、対人関係の取りにくさの訴えがあった子どもが多かった。
- ・新患時に両親が就労しており、すでに保育園に入っているケースが増えている。
- ・生活支援の中で、椅子の作成、個別治療の中で摂食指導も行った。
- ・理学療法を実施するにあたり、携帯酸素の使用や気管切開等、特に呼吸機能に配慮を必要とする児が数名いた。

表 4 - 11 PT 開始年齢別・区別状況（新規）

（単位：人）

区	就 学 前								小学生		計	%
	0歳 6ヶ月未満	0歳 6ヶ月以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年		
千種区		1	6	4	2		2	1			16	29.0
守山区		5	11	3	1		2		1	1	24	43.6
名東区		5	7	1		2					15	27.4
計	0	11	24	8	3	2	4	1	1	1	55	
%	0.0	20.0	43.6	14.5	5.5	3.7	3.7	1.8	1.8	1.8		100.0

注) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表4-12 PT診断区別状況（新規）

（単位：人）

主診断名	就 学 前							小学生		計	%	
	0歳 6ヶ月未満	0歳 6ヶ月以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学 年			高学 年
脳 性 麻 痺			1 (1)			1	1 (1)		1		4 (2)	7.3
後天性要因による 運 動 障 害			1								1	1.8
そ の 他 の 運 動 障 害			1		1						2	3.7
運 動 発 達 遅 滞		7 (3)	10 (2)	3							20 (5)	36.4
知的障害に伴う 運 動 発 達 遅 滞			4 (2)	2				1			7 (2)	12.7
二 分 脊 椎			1								1	1.8
ダウ ン 症 候 群		2 (2)	4 (2)	1							7 (2)	12.7
そ の 他 の 遺 伝 子 疾 患		2 (2)	2 (1)	2 (2)			1				7 (6)	12.7
歩 容 異 常					2	1	2				5	9.1
そ の 他										1	1	1.8
計	0	11 (7)	24 (7)	8 (2)	3	2	4 (2)	1	1	1	55 (19)	100.0

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) () 内は、その子どものうちで、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある子どもの数をあげた。

(3) その他の遺伝子疾患は染色体異常、遺伝子異常をしめす。

(4) その他は心疾患・整形外科的疾患によるものである。

(5) 歩容異常とは協調性運動障害や発達障害によるものである。

表4-13 PT年齢別・区別状況（継続）

（単位：人）

区	就 学 前						小学生		中学生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
千 種 区		9	8	9	4	7	8	3		48	31.2
守 山 区	2	5	10	8	5	9	10	11	2	62	40.2
名 東 区	1	8	6	3	8	5	7	3	3	44	28.6
計	3	22	24	20	17	21	25	17	5	154	
%	1.9	14.3	15.6	12.9	11.1	13.6	16.3	11.1	3.2		100.0

注) 年齢は、学年齢である。

表4-14 PT診断別状況（新規+継続児）

（単位：人）

診断区分	0歳 2024年度生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	中学生	計	%
脳性麻痺		1 (1)	1			3 (1)	3 (1)	7	9 (2)	2	26 (7)	12.4
後天性要因による 運動障害			2				1		1	1	5	2.4
その他の運動障害			3	2 (1)	1	2 (1)	3	1	5 (2)		17 (4)	8.1
運動発達遅滞		14 (1)	9	4	3						30 (1)	14.4
知的障害に伴う 運動発達遅滞		1 (1)	12 (1)	8	9	1	7		1		39 (2)	18.7
二分脊椎			1	1		1			2		5	2.4
ダウン症候群		7	6	6	3	4	5	1	1		33	15.8
その他の 遺伝子疾患	1 (1)	2 (2)	5 (1)	7 (4)	1	6 (3)	2	6 (1)	5 (1)	2 (1)	37 (14)	17.7
歩容異常				1	4	5	1	3			14	6.7
その他				1					2		3	1.4
計	1 (1)	25 (5)	39 (2)	29 (5)	22	22 (5)	22 (1)	18 (1)	26 (7)	5 (1)	209 (28)	
%	0.5	11.9	18.7	13.9	10.5	10.5	10.5	8.7	12.4	2.4		100.0

- 注）（1）2024年度内に管理をした子どもの状況を示す（年度内終了児を含む）。
 （2）年齢は、学年齢である。「0歳児、2024年度生まれ」は、2024年4月2日以降生まれの子どもである。
 （3）診断は、2025年3月末時点（終了時はその時点）の診断である。
 （4）（ ）内は、その子どものうちで移動不可～寝返りの子どもの数をあげた。2025年3月末（終了時はその時点）の状態である。
 （5）その他は心疾患・整形外科的疾患によるものである。
 （6）歩容異常とは協調性運動障害や発達障害によるものである。
 （7）移動不可～寝返りの子ども28名のうち21名は重症心身障害児である。

表4-15 PT児童所属状況

（単位：人）

	在 宅	就園前グループ		通 園 待 機	通 園 施 設	幼保 稚育 園園	児童 デイ サー ビス	小学生			中学生		計
		月 1 回	週 1 回					通 常 級	特別 支援 学級	特別 支援 学級	特別 支援 学級	特別 支援 学級	
人員	6	4	41	4	25	79	1	7	17	20	1	4	209
%	2.9	1.9	19.6	1.9	11.9	37.8	0.5	3.3	8.1	9.7	0.5	1.9	100.0

注）終了児はその時点の、継続児は2024年3月末時点の状況である。

表4-16 PT 終了等の状況

(単位：人)

目標達成	評価のみ	転院・転居	高校卒業	死亡	中断	計
31	0	11	0	0	1	43

注) 当センターの管理は、高校卒業までである。

表4-17 PT 診断区分別状況 (終了)

(単位：人)

診断区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年	計	%
脳性麻痺			1						2 (1)	3 (1)	6.9
その他の運動障害		1						3		4	9.4
運動発達遅滞			4	1						5	11.7
知的障害に伴う 運動発達遅滞			2	5		2	2			11	25.6
ダウン症候群			2		2	3				7	16.3
その他の 遺伝子疾患		1 (1)						2 (1)		3 (2)	6.9
歩容異常				1	2	4		3		10	23.2
計	0	2 (1)	9	7	4	9	2	8 (1)	2 (1)	43 (3)	100.0

注) 年齢は、終了時の満年齢である。

表4-18 PT 月別状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人員	129	129	131	135	134	145	147	151	149	149	144	138	1,681	140.1
延人員	244	237	259	269	219	257	325	288	271	274	266	264	3,173	264.4
月管理数	158	159	163	165	166	171	170	173	176	182	181	180		

注) (1) 一人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は1.9回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は1.6回であった。

(3) 実際の訓練回数は、必要に応じ週1～月1回程度である。

(2) 作業療法 (OT)

- ・作業療法士2名、欠員状態で業務を行った。
- ・医師の指導監督の下、作業療法士2名が施設基準の障害児(者)リハビリテーションに基づいて個別訓練を実践した。また、地域支援調整部の事業を兼務した。
- ・OTが必要な子どもの数やニーズが多い現状の中で、不器用さをはじめとした協調運動の困難さ、感覚面の発達の偏りによる生活や集団における不適応、家族支援等が必要な就学前の子どもの主たる対象とした。
- ・処方から3カ月以内に訓練が開始できることや、月1回以上の訓練頻度を保障するために処方数(表4-26の処方数参照)を設定した。
- ・新型コロナウイルス感染予防のため、マスクを使用した。
- ・作業療法士1名は、施設支援等地域支援も担当した。

表4-19 OT開始年齢別・区別状況(新規)

(単位:人)

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計	%
千種区				2	3	7	3	15	30.0
守山区				1	3	6	3	13	26.0
名東区				5	9	7	1	22	44.0
計	0	0	0	8	15	20	7	50	100.0

注)年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表4-20 OT診断別状況(新規)

(単位:人)

診断区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計	%
脳性麻痺								0	0.0
後天性要因による運動障害						1		1	2.0
発達性協調運動障害				2		5	1	8	16.0
運動発達遅滞								0	0.0
二分脊椎								0	0.0
ダウン症候群								0	0.0
染色体異常					1			1	2.0
知的障害				1	1	2	1	5	10.0
境界域								0	0.0
A D H D			1	2	2	2		7	14.0
A S D	知的障害を伴う			1	5	2	1	9	18.0
	知的障害を伴わない			2	5	8	2	17	34.0
その他						1	1	2	4.0
計	0	0	1	8	14	21	6	50	100.0

注) (1)年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD + 境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含まれている。

表4-21 OT年齢別・区別状況（継続）

（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	計	%
千種区				1	3	9	1	1	15	30.6
守山区				3	3	11	2	1	20	40.8
名東区		1	2		1	8	1	1	14	28.6
計	0	1	2	4	7	28	4	3	49	100.0

注）年齢は、訓練開始時の学年齢である。

表4-22 OT診断別状況（新規+継続）

（単位：人）

診断区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	計	%
脳性麻痺						2		2	4	4.0
後天性要因による運動障害		1			1			1	3	3.0
運動発達遅滞				1		2			3	3.0
二分脊椎									0	0.0
ダウン症候群						1			1	1.0
染色体異常					1	2			3	3.0
知的障害				2	1	10	1		14	14.1
境界域									0	0.0
A D H D			2	3	3	3	1		12	12.1
A S D	知的障害を伴う		1	2	8	10			21	21.2
	知的障害を伴わない		1	3	12	8	1		25	25.3
発達性協調運動障害				2		7			9	9.1
その他						3	1		4	4.0
計	0	1	4	13	26	48	4	3	99	100.0

注）（1）2024年度内に管理した全ての子ども状況を示す（終了児を含む）。

（2）年齢は、学年齢である。

表4-23 OT管理児所属状況

（単位：人）

	在宅	療育グループ	通園施設	保育園	小学校			中学校	計
					通常級	特別支援学級	特別支援学校	特別支援学級	
人員	2	3	21	67	3	0	3	0	99
%	2.0	3.0	21.2	67.8	3.0	0.0	3.0	0.0	100.0

表4-24 OT終了等の状況

(単位：人)

区分	目標達成	就学のため	転院・転居	クール終了	中断	計
人員	40	16	4	1	0	61

※クール終了は、目標達成、就学、転院、中断以外をさす。

表4-25 OT診断別状況（終了）

(単位：人)

診断区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	計	%
脳性麻痺						2			2	3.3
後天性要因による運動障害						1		1	2	3.3
運動発達遅滞				1		2			3	4.9
二分脊椎									0	0.0
ダウン症候群						1			1	1.6
染色体異常						1			1	1.6
知的障害						7	1		8	13.1
境界域									0	0.0
A D H D			1	1	1	2			5	8.2
ASD	知的障害を伴う			2	2	11			15	24.6
	知的障害を伴わない				5	8	1		14	23.0
発達性協調運動障害						6			6	9.8
その他						3	1		4	6.6
計	0	0	1	4	8	44	3	1	61	100.0

注) (1) 年齢は、訓練開始時の学年齢である。

(2) ASD + 境界域は、ASD (知的障害を伴わない) に含まれている。

表4-26 OT月別状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
処方数	5	4	4	7	3	4	6	4	1	5	4	2	49	4.08
月管理数	54	57	61	56	58	61	63	68	70	72	75	77		
実人員	45	49	47	53	52	57	57	63	61	65	64	67	680	57
延人員	79	85	88	92	82	84	104	105	91	106	92	87	1095	91
全担当児の頻度(回)	1.46	1.49	1.44	1.64	1.41	1.38	1.65	1.54	1.30	1.47	1.23	1.13	17.15	1.43

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延べ人数÷実人数)は、月平均1.61回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延べ人数÷月管理数)は、月平均1.43回であった。

(3) 言語聴覚療法 (ST)

- ・個別治療は医師の指導監督の下、言語聴覚士3名が施設基準の障害児者リハビリテーションに基づいて行った。
- ・STが必要な子どもの数やニーズの声が多い中で、言語・コミュニケーションに何らかの困難をもち、特に発達全体のフォローや家族支援が必要な就学前の子どもを主たる対象とした。
- ・業務の多様化と2025年度の体制変更に伴い、2024年度途中より処方数と管理数の調整を行った。処方から2カ月以内の訓練開始や月1回以上の訓練頻度保障することは継続した。
- ・他施設STへの紹介数は66件(2023年度54件)であった。他施設STとお互いの施設の状況を共有する連携を実施し始めた。
- ・言語聴覚士3名は、週1回の耳鼻咽喉科の各種聴覚検査(BOA・COR・peep-show・ティンパノメトリ・DPOAE)を担当した。
- ・言語聴覚士2名は、月2回、構音・吃音の子どもを対象に初診前インテークの継続相談を担当した。

表4-27 ST開始年齢別・区別状況(新規)

(単位:人)

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計	%
千種区					2	6	2	10	23.8
守山区				3	5	5	3	16	38.1
名東区				1	6	7	2	16	38.1
計	0	0	0	4	13	18	7	42	
%	0.0	0.0	0.0	9.5	31.0	42.9	16.7		100.0

注) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表4-28 ST診断別状況（新規）

（単位：人）

診断区分		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計	%
脳性麻痺									0	0.0
知的障害					2	1	6	1	10	23.8
境界域									0	0.0
ASD	知的障害をともなう				1	8	4	2	15	35.7
	境界域						2	1	3	7.1
	知的障害をともなわない						1		1	2.4
LD									0	0.0
ADHD									0	0.0
言語発達遅滞					1	1	4	3	9	21.4
ダウン症候群						2			2	4.8
構音障害						1	1		2	4.8
吃音									0	0.0
難聴									0	0.0
計		0	0	0	4	13	18	7	42	100.0

注）年齢は、訓練開始時の満年齢である。

表4-29 ST区別状況（継続）

（単位：人）

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	計	%
千種区					3	16	3	22	28.9
守山区				4	7	15	5	31	40.8
名東区				1	7	11	4	23	30.3
計	0	0	0	5	17	42	12	76	
%	0.0	0.0	0.0	6.6	22.4	55.3	15.8		100.0

注）（1）年齢は、学年齢である。

（2）2023年度からの継続児の状況を示す。

表4-30 ST診断別状況（新規+継続）

（単位：人）

診断区分		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	計	%
脳性麻痺							1		1	0.8
知的障害					4	7	6	2	19	16.1
境界域									0	0.0
ASD	知的障害をともなう				6	12	19	1	38	32.2
	境界域						6		6	5.1
	知的障害をともなわない						3	1	4	3.4
LD									0	0.0
ADHD									0	0.0
言語発達遅滞					4	8	22	1	35	29.7
ダウン症候群						2	1	1	4	3.4
構音障害						3	3	5	11	9.3
吃音									0	0.0
難聴									0	0.0
その他									0	0.0
計		0	0	0	14	32	61	11	118	100.0

注）（1）2024年度に管理した全ての子ども状況を示す（終了児も含む）。

（2）年齢は、学年齢である。

（3）構音障害に分類した子どもの64%はその他の障害(ASD, ADHD, 知的障害, DCD)をあわせもっていた。

表4-31 ST管理児所属状況

（単位：人）

	在宅	就園前グループ	児童発達支援事業所	通園施設	保育園	小学校			計
						通常級	特別支援学級	特別支援学校	
人員	1	2	0	19	85	7	4	0	118
%	0.8	1.7	0.0	16.1	72.1	5.9	3.4	0.0	100.0

注）2024年度内に管理した全ての子ども状況を示す（終了児を含む）

表4-32 ST終了等の状況

(単位：人)

目標達成	評価の み	ク ー ル 終 了	就学のため		転 居	転 院	中 断	計
			終 了	S他 T医 へ療 移機 行関				
37	0	0	19	3	2	1	7	69

表4-33 ST診断別状況（終了）

(単位：人)

診断区分		就学前						小学生	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年		
脳性麻痺									0	0.0
知的障害						2	5	1	8	11.6
境界域									0	0.0
ASD	知的障害をともなう					1	17	1	19	27.6
	境界域						5		5	7.2
	知的障害をともなわない						3	1	4	5.8
LD									0	0.0
ADHD									0	0.0
言語発達遅滞					1	1	22	1	25	36.2
ダウン症候群							1	1	2	2.9
構音障害						1	2	3	6	8.7
吃音									0	0.0
難聴									0	0.0
計		0	0	0	1	5	55	8	69	100.0

注) 年齢は学年齢である。

表4-34 ST月別状況

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
処方数	3	4	4	5	4	5	3	3	1	1	1	0	34	2.8
実人員	65	72	75	80	78	78	91	86	81	88	83	76	953	79.4
延人員	86	97	97	101	99	92	118	111	100	113	104	98	1,216	101.3
月管理数	82	86	90	93	97	100	103	105	107	105	103	97		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.22回であった。

(2) 担当児全員の頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.04回であった。

(4) (リ) ハビリススタッフにおける生活支援

① 保育（通園）との連携

- ・各クラスの状況を共有し、保育場面への参加予定を組み、介入した。
- ・通園スタッフ1名、通園主任1名、(リ)ハビリススタッフ2名、発達相談員1名による連携会議を月1回実施した。通園の各クラスの状況や、通園児の発達相談・小児科受診の状況、全体行事に向けた通園部と相談診療部・地域支援部との連携の計画などを話し合った。

② 療育グループとの連携

㊸就園前グループ

- ・就園前グループ実施状況参照。

㊹並行グループ

- ・並行グループ実施状況参照。

③ 摂食・嚥下機能訓練

- ・麻痺等の運動障害に起因する摂食・嚥下障害をもつ子どもや運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども、運動に遅れはないが摂食嚥下障害が認められる子ども（およびその保護者）を主な対象に、(リ)ハビリススタッフ（PT・OT・ST）の計7名で指導・援助を行った。
- ・指導・援助は、㊸通園での給食、㊹摂食訓練会において行った。

㊸通園での給食

- ・通園児46名中25名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。
- ・通園スタッフと訓練目標や介助方法を一致させるため、各子どもの支援計画を作成した。

表4-35 給食指導対象児の年齢別状況 (単位：人)

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
0	0	3	4	10	8	25

注) 年齢は、学年齢である。

表4-36 給食指導・援助の月別状況 (単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
41	39	39	30	19	36	47	29	34	39	28	19	400

注) (1) クラス全体への評価・援助を含む。

(2) 複数の(リ)ハビリススタッフで介入したケースがあったため、単位を件とした。

⑥摂食訓練会

- ・摂食訓練会を年間 19 回設定した。1 回につき最大 5 名、子ども 1 名につき（り）ハビリスタッフが 1 から 2 名体制で個別指導を中心とした内容で実施した。必要に応じて、評価・治療に加え、他施設への引継ぎを行った。
- ・年間管理数は 89 名、その内 0～8 歳の子ども 55 名に対し、評価・治療を行った。所属内訳は、療育グループ 17 名、通園待機 1 名、保育園・幼稚園 22 名、在宅 1 名、小学生 2 名、通園児 12 名であった。
- ・新規児童は 21 名（2023 年度と比して 1 名減）であった。
- ・昨年度と同様に未就園児の人数が多く、口腔機能が変わりやすい時期であることや、場所に慣れることが難しく打ち解けることに回数が必要な子どもに対して、継続的なフォローが必要であった。そのため上記以外の日程を年間 43 回設定し延べ 62 回実施した。

表 4 - 37 摂食訓練会実施児の診断別状況

(単位：人)

診断区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	計	%
重症心身障害			1		3			4	7.3
脳性麻痺			1					1	1.8
後天性要因による運動障害		1						1	1.8
ダウン症候群	2	2	4		3	7		18	32.7
その他の染色体		3	6		1	2		12	21.8
摂食機能障害							1	1	1.8
運動発達遅滞		2	2	1				5	9.1
知的に伴う運動発達遅滞		1	5	4	1	1	1	13	23.7
その他								0	0.0
計	2	9	19	5	8	10	2	55	
	3.6	16.5	34.5	9.1	14.5	18.3	3.6		100.0

表 4 - 38 摂食訓練会月別実施数

(単位：件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
9	4	8	11	9	13	11	6	7	9	8	10	105

第5 通園事業

1 施設概要

(1) 定 員 43名

(2) 対 象

名古屋市守山区、千種区、名東区在住のすべての障害、発達遅れのある子ども、またはその疑いのある子ども。(0歳～6歳)

(3) クラス編成

原則として生活年齢を基準に編成し、子どもの運動的な発達、医療的ケアなどの状況に応じて配慮する。

(4) 通園形態

親子通園及び単独通園

月・火・木・金／9：30～15：00 水／9：30～12：45

(5) 親子通園の種類

- ① 新入園児は年齢やこれまでの集団での経験を考慮し一定期間週3日の親子通園とする。
- ② 新入、進級に関わらず、年間を通して毎週水曜日は親子通園とするが、保護者プログラム実施時には単独とする。

(6) 通園バス

- ・水曜日以外、マイクロバス(29人乗り)1台、10人乗りワゴン車1台、幼児通園バス1台(12月から10人乗りワゴン車に変更)、で3区を運行。
- ・水曜日は、ご希望がある方に、都度、運行ルート、バス停を変えて、送迎車を出して運行。

2 療育目標

- ・24時間の生活リズムを整え、発達の土台となる健康なからだづくりを積極的に行う。
- ・子どもの好きなことに共感し、大好きな人との信頼関係をつくる。
- ・くり返しの日課のなかで、次の見通しを持って生活し、自分でできることを拡げていく。
- ・好きなことを土台にあそびをひろげ、からだを動かすこと、物にかかわることに楽しくとりくみ、自分のからだから外の世界へと関心を広げ、物や人に働きかける力を育てる。
- ・楽しいあそびのなかで、もっとあそびたいという要求を高め、達成感を感じることでできるあそびをつくる。
- ・自分の気持ちを伝えたいという要求をもち、相手からの働きかけを受けとめ、視線やまなざし、表情全体、身ぶりやサイン、ことばなどで自分の気持ちを伝える力を育てる。

3 日課

表5-1 通園部の日課

時間	単独登園日	親子登園日
8:50	通園バス出発	
9:30	直接登園 受け入れ開始	登園 健康チェック・排泄
9:50	通園バス到着	リズム運動・季節の歌（全体で）
10:10	健康チェック 排泄 リズム運動・季節の歌（全体で） 水分補給 おはようのつどい	水分補給 おはようのつどい とりくみ
11:00	とりくみ 排泄・給食準備 給食	排泄・給食準備 給食
12:00		ハミガキ・たんれん・着替え・排泄
12:30	ハミガキ・たんれん・着替え・排泄	絵本・さようならのつどい・降園
12:45		
13:00	絵本・午睡	
14:00	排泄・着替え・水分補給 さようならのつどい 降園	
14:50	通園バス出発	
15:00	見守り一時支援（～ 17:00）	

※クラスの子どもの状況により時間は異なる。

4 児童の状況

表5-2 通園部のクラス編成

クラス名	年齢・人数	担任数	クラスの特徴
うさぎ	5歳児4名 4歳児5名 (10月から4名)	4	進級児8名(10月から7名)・新入児1名／MR・ASD・ダウン症 4歳児・5歳児の縦割りクラスで、からだを動かしてあそぶことを大切にしてきた。年長児さんの生活づくりを土台にしてお当番・畑作りやお友だち同士の関わりをそれぞれで積み重ね、少しずつ保育者からお友だちにも興味・関心が広がり、子ども同士の関わりが増えていった。
とんぼ	5歳児6名 4歳児2名 3歳児2名	4	進級児8名・新入児2名／重心・肢体重複・医ケア児 3・4・5歳児の縦割りクラス。注入や吸引、吸入、人工呼吸器の使用など、医療的なケアを必要としている子どもが4名、発作のある子どもが5名おり、看護師と共に保育をおこなってきた。リズム運動やふれあいあそびなど、からだを使ってあそぶことを積み重ねる中で、からだの使い方に自信が付き、自分から挑戦する姿が広がった。保育者が間に入りながら、子ども同士がつながる場面を積み重ねる中で、後半はお友だちとの関わりが広がった。
こうま	4歳児3名 3歳児5名 (9月から2歳児1名)	4	進級児6名、新入児2名(9月より3名)／MR・ASD・二分脊椎など 2・3・4歳児の縦割りクラス。毎日の体操やふれあいあそび、朝のつどいなど毎日同じ日課の積み重ねを大切にしてきた。感触あそびやからだを使ったあそびなど繰り返し同じあそびをすることで、期待がふくらみ、自分から向かう姿が増えていった。また、縦割りならではの年上の子が年下の子を気遣いお世話をしたり、年下の子は年上の子を慕っていたり、など同年齢では味わえない関わりが広がった。
きんぎょ	3歳児6名 (9月から5名) 2歳児2名	4	進級児2名・新入児6名(9月より5名)／ASD・MR 全員歩行可能。からだを動かしてあそぶことが楽しい子どもが多く、園庭での追いかけっこや、サーキットあそび、トランポリン、ふれあいあそびなど、からだをしっかりと使い刺激が入るあそびを中心に楽しんできた。また、さまざまな素材に触れる感触あそびを積み重ねる中で、手指を使って素材を変化させること、道具操作のも楽しめるようになった。ことばでのコミュニケーションが取れて一緒にあそぶことが楽しめる反面、要求がふつかることも多かった。職員が間に入って、楽しくかわれるよう配慮してきた。
あひる	2歳児8名 (9月から10名)	4	新入児8名(9月から10名)／MR・ASD・難聴医ケア児 全員歩行が可能だが、医療的ケア児2名(気切)と発作の多い子がいて、常に看護師のいる体制で保育づくりをしてきた。外でからだを使ってあそぶこと、クッキングなど本物の体験や自然に触れることを大切にあそんできた。子ども同士がことばでやりとりする場面が増え、お互いを意識しながら、1年を通して子ども同士の関りが広がった。

表5-3 通園部の登園状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	17	21	20	19	12	18	22	20	18	18	18	17	220
総出席数	498	668	690	682	403	636	801	738	642	668	621	577	7624
最大延べ通園日数	688	903	860	817	516	774	968	880	792	792	792	748	9530
出席率(%)	72.38	73.97	80.23	83.47	78.10	82.17	82.74	83.86	81.06	84.34	78.40	77.13	

注) 在園数 44 名とする

表5-4 通園部の障害種別状況

(単位：人)

障害種別	計
肢体不自由+知的障害	5
知的障害	12
自閉症+知的障害	22
自閉症	0
重症心身障害	3
聴覚障害	1
言語発達遅滞等	2
その他保健	1
計	46

注) 年度途中退園児 2 名含む

表5-5 通園部の診断区分状況

(単位：件)

診断区分	計
自閉症	16
脳性麻痺+知的障害	2
知的障害	11
ダウン症候群	3
重症心身障害	4
運動発達遅滞	1
その他症候群	7
知的境界域	2
計	46

注) 年度途中退園児 2 名含む

医療的ケアの必要なケースは、吸引3名、経鼻栄養3名、胃ろう2名、呼吸器1名、導尿1名

表5-6 通園部の愛護手帳所持状況

(単位：人)

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1度			2	3	5
2度	1	2	1	6	10
3度	2	3	2	1	8
4度	6	8	4		18
未所持	4		1		5
計	13	13	10	10	46

注) 年度途中退園児 2 名含む

表5-7 通園部の身障者手帳所持状況

(単位：人)

		2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
I 種	1級	1	2	2	2	7
	2級	1	1		4	6
	3級					0
	4級					0
	5級					0
	6級					0
II 種	1級					0
	2級					0
	3級					0
	4級					0
	5級					0
	6級	1				1
	未所持	10	10	8	4	32
	計	13	13	10	10	46

注) 年度途中終了児2名含む

表5-8 通園部の区別状況

(単位：人)

区	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
千種	3	5	2	5	15
守山	8	5	1	2	16
名東	3	3	6	3	15
計	14	13	9	10	46

注) 年度途中終了児2名含む

表5-9 通園部の在園期間 (単位：人)

在園期間	計
1年未満	3
1年以上2年未満	21
2年以上3年未満	11
3年以上4年未満	9
4年以上5年未満	2
計	46

注) 年度途中終了児2名含む

表5-10 通園部の卒退園児の進路先

(単位：人)

		進路先	人数	計
卒園	特別支援学校	肢 体	3	10
		知 的	3	
		知的(重複)	1	
		そ の 他		
	特 別 支 援 学 級	3		
退園	保 育 園	公 立	8	11
		私 立	3	
	幼 稚 園	公 立	2	2
		私 立	0	
	認 定 こ ど も 園	1	1	
	特 別 支 援 学 校 (幼 稚 部)	1	1	
	そ の 他 (事 業 所)	1	1	
	そ の 他 (転 居)	1	1	
	そ の 他 (児 童 発 達 支 援)	1	1	
計				28

注) 年度途中終了児2名含む

表5-11 通園部の見守り一時支援月別件数 (単位：件)

月	開所日	利用者人数	延べ利用者数	日平均
4月	15	13	54	3.6
5月	18	13	77	4.2
6月	16	20	103	6.4
7月	16	17	96	6.0
8月	15	20	124	8.2
9月	15	22	105	7.0
10月	19	23	124	6.5
11月	15	21	122	8.1
12月	18	21	115	6.3
1月	18	20	120	6.6
2月	16	22	110	6.9
3月	14	19	82	5.9
計	195	231	1232	6.3

1日定員10名を基本に月・火・木・金の15時から17時で行う。

両親の就労や、家族の病気や習い事・行事などで必要な場合は水曜日も受け対応してきた。

5 行事

表5-12 通園部の行事実施状況

月	日	行事名
4	5 (金)	進級式
	6 (土)	入園式
5	17 (金)	親子遠足 (東山動物園)
	25 (土)	わくわくフェスタ
6	14 (金)	プール開き
	17 (月)	田植え体験 (年長児)
7	5 (金)	七夕のつどい
		海のつどいく小野浦海岸で海水浴>
	16 (火)	こうま・きんぎょ
	18 (木)	とんぼ・うさぎ・あひる
	24 (水)	夏のつどい (ただじゅんさんのわくわくステージ)
8	22 (木)	粘土あそび大会 (うさぎ・きんぎょ・あひる)
	23 (金)	(とんぼ・こうま)
9		年長合宿
	19 (木)	川口やなでの鮎つかみやクッキング
	20 (金)	*保護者は施設見学プログラム
	25 (水)	プールじまい
	26 (木)	法人創立記念日プログラム (親子で劇団うりんこの「ドングリ山のやまんばあさん」観劇)
10	15 (火)	名フィル親子コンサート (3・4・5歳児希望者)
	22 (火)	稲刈り体験 (年長児)
11	2 (土)	かぞくうんどう会
	23 (土)	社会館バザー・施設見学
12	18 (水)	クリスマス会 (親子マリンバコンサート)
1	8 (水)	お正月のつどい (親子おもちつき)
		雪のつどいく平谷高原スキー場でそりあそび>
	21 (火)	うさぎ・きんぎょ・あひる
	23 (木)	とんぼ・こうま
2	3 (月)	節分のつどい
	8 (土)	1年のまとめの行事 (えがおまつり)
	28 (金)	ひなまつりのつどい
3	1 (土)	親子遠足くすまいるベリーズ長久手でいちご狩りとパネルシアター>
	12 (水)	ミニSL (中止) 親子でシャボン玉大会 (保護者会主催)
	21 (火)	卒園式
	23 (木)	春のつどい (歌とスライド)

6 家族の状況と支援

表5-13 通園部の家族支援状況

取り組み	内 容
2024年度の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めて、待機児グループとして、4月から週2回、2歳児4組の親子を受け入れた。ぼけっと内で場所の確保できず、借りることができた「ののかぜ保育園」の部屋を拠点とした活動づくりを行った。10時から給食の提供を含めた12時半まで受け入れる中で、あそびや生活で使うもの、おやつや給食をぼけっとから運ぶ大変さもあったが、参加した親子は、集団でのあそびや生活の経験を積み重ねることができた。8月末に通園に通うご家族の転勤により途中退園者があったことで、家庭のご事情で参加がなかった1組の親子を除く、3組の親子について、2歳児のクラスに2名の子ども、3～5歳児のクラスに1名の子どもが9月入園となり、待機児グループは終了した。 ・家族支援や進路選びなどのところでは、その都度、懇談をして一緒に考え合うことを大切にしてきた。必要なケースには園の見学に担任が付き添った。 ・共働き家庭が多く、見守り一時支援の利用が多かったため、新入児の利用は就労家庭または相談を受けた場合のみの実施とした。また子どもの姿によっては少人数になるようにグループ分けをして対応してきた。 ・家庭状況、子どもの姿から水曜日の午後も見守り一時支援事業を実施。また水曜日は保護者の希望を聞いて親子の送迎バスを実施、登園を保障した。 ・年長児は近隣の保育園の年長児とぼけっとのマイクロバスで田植えと稲刈りに出かけ、交流保育を実施した。
家庭訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の4月に家庭訪問を実施し、家庭の状況や保護者の思いなどを聞いた。
クラス懇談会 個人懇談会 両親懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・5月、10月にクラス懇談会を実施。保護者に保育計画を伝え、担任と保護者で子どもの姿を確認しあった。前半期と後半期に分けて親子で乗馬のとりくみを行った。 ・個別の懇談会を前半期・後半期（両親懇談）で実施。個別支援計画は保護者とのモニタリングを経て、個別支援計画担当者会議を行ってきた。その後、保護者に個別支援計画を確認していただき、クラス療育に繋げてきている。その他、進路において必要な場合に懇談を行った。
親子あそび 親子プール 家族行事	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜を親子通園日とし、お誕生日会や保護者研修を行った。親子プールは曜日を替えて月一回各クラス、また行事の多い月や登園日の少ない月にはみんなのプールを実施した。 ・新入児は親子通園期間の中で、親子が触れ合い、楽しくあそぶ経験を通しながら、子ども理解を深め、よりよい親子関係を作るとともにあそびを通して親も楽しむことを大切にしてきた。 ・家族行事では、これまで「父子のつどい」としていたところを家族行事に替えて実施し、社会館バザーに出かけた。また、法人施設の見学を行った。 ・今年度は、3月にいちご狩りに出かけた。お出かけの後は、ぼけっとで親子で昼食をとり、パネルシアターを楽しむなど、ぼけっとの保育、ぼけっとでの子どもの姿を伝えることも大切にした。 ・季節の節目にあるつどいを実施。講師を呼んだりお誕生日会と一緒にを行った。
保護者会の援助	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会の予算でミニSL体験を予定していたが、雨天のため延期。また、延期した日にはSLが故障したため、急遽しゃぼん玉あそびに変更して実施。 ・保護者会からの要望を一つひとつ受け止め、日々の保育につなげるようにした。

表5-14 通園部の保護者研修実施状況

日 時	内 容	講 師
4月17日	在園児健診（進級児）	当センター所長 荒川医師
5月14日	在園児健診（新入児）	当センター所長 荒川医師
6月12日 19日	歯科検診・歯科講話	糸山歯科医
6月17日	就学懇談会	教育センター 久賀氏
6月26日	子どもの発達を支える感覚とあそび	当センター 水科 OT 青島 OT
7月 3日	就園説明会	星ヶ丘保育園 林氏
7月10日 17日	コミュニケーションの育ちに大切なこと	当センター 村手 ST
8月 7日	先輩保護者との交流会	先輩お母さん 4名
9月 4日	救命救急講習	名古屋市応急手当研修センター
9月11日	保護者会主催ダンス研修	野嶋順一氏
10月25日 31日 11月 8日 14日 9日	親子乗馬体験	げんき牧場 加藤泰一氏
11月13日 11月20日	在園児健診	当センター所長 荒川とよ子
11月27日	「こどもと絵本をひらくよろこび」	子どもの本専門店 「メリーゴーランド」 代表 増田喜昭氏
12月11日	先輩保護者との交流会	先輩お母さん 4名
1月15日	「発達するってどういうこと？」 一分かりやすい発達講座一	近藤直子氏
2月19日	サポートブック研修	当センター 関谷氏
2月26日	コミュニケーション研修	劇団うりんこ 小原ひろみ氏
3月14日	パン教室（希望者のみ）	当センター給食パート職員 堀氏

7 通園地域ケア

表5-15 通園部の就園児アフターケア実施状況

日時	実施場所・内容	参加人数
8月24日(土)	ぼけっと・園庭プール	3名

あそび虫と同じ日に実施。保護者の方は近況を報告し合い交流を深めた。

- ・ぼけっとを経過した小学生・中学生を対象にプログラム9回実施した。参加希望人数や子どもの様子によってグループ分けをしてあそびづくりをした。ダンスでは、外部講師に来ていただき、季節のダンスにとりくみ、時には親子で楽しんだ。
- ・青年期の自主グループにも職員を派遣し、活動を一緒につくった。

表5-16 通園部のあそび虫クラブ・青年期のグループ実施状況

日時	実施場所・内容	参加人数
6月15日(土)	ぼけっと：ダンス・製作	4名
	ぼけっと：ダンス・氷あそび	5名
	ぼけっと：ダンス・製作	6名
	げんき牧場にて乗馬	11名
	ぼけっと：ダンス・ボーリング	4名
7月6日(土)	ぼけっと：プール	5名
	ぼけっと：ボウリング・プール	9名
	ぼけっと：プール	9名
	ぼけっと：水あそび・トランポリン	4名
	ぼけっと：輪投げづくり・輪投げ	9名
8月24日(土)	ぼけっと：プール	3名
	ぼけっと：プール	4名
8月28日(水)	ぼけっと：室内プール	2名
8月28日(水)～ 8月29日(木)	小那比野外活動センター学齢期キャンプ (台風の為日程を変更し、また2泊から1泊に変更)	7名 3名
11月16日(土)	ぼけっと：運動会(ホール)	3名
	ぼけっと：運動会(ホール)	6名
	ぼけっと：運動会(ホール)	4名
	東山動植物園	6名
12月21日(土)	ぼけっと：クリスマスダンス・クッキング(バナナジュース)	8名
	ぼけっと：クッキング(フルーツポンチ)・クリスマスダンス	6名
	ぼけっと：クッキング(ホットケーキ)・クリスマスダンス	6名
	ぼけっと：クッキング・クリスマスダンス	7名
1月18日(土)	ぼけっと：お正月あそび(福笑い、羽根つき)	6名
	ぼけっと：凧あげ・だるま落とし・餅まきあそび	6名
	ぼけっと：こまづくり・的あて・ボウリング	9名
3月15日(土)	ぼけっと：ダンス・シャボン玉	5名
	ぼけっと：お買い物・ダンス	6名
	ぼけっと：シャボン玉・ダンス	4名
	ぼけっと：太鼓・ボウリング	7名
参加延べ人数		177名

8 ボランティア

- ・中部善意銀行を通して申し込みのあった、夏季高校生ボランティアを多く受け止めた。
今年度も行事やあそび虫クラブのボランティア募集をしたが、天候で行事の日程変更があったことで少ない人数の受け入れとなった。

表5－17 通園部のボランティア受け入れ状況

内容	日数	延べ人数
週に1回または単発的な保育補助	15日	52名 (39名)
うんどう会、えがおまつり、粘土あそび大会での保育時補助	5日	23名
あそび虫クラスの補助	4日	17名
地域の子どもたち、家族を対象にしたあそびのイベント「わくわくフェスタ」、「緑ぼけまつり」で子どもたちとあそぶブースを担当	2日	12名

総延日数：26日 総延人数：104名

注) () は中部善意銀行を通して申し込みのあった、夏期高校生ボランティア

第6 その他の事業

1 障害児相談支援事業

主に障害児通所支援及び障害福祉サービスの利用を希望する乳幼児から、概ね3年生までの児童の保護者に対し、基本相談及びサービス等利用計画、障害児支援利用計画の作成、定期的なモニタリングを実施してきている。職員体制としては、管理者1名（兼務）、相談支援専門員常勤1名、非常勤1名、常勤兼務2名）で行ってきた。

移行については、千種区・名東区の相談支援部会で顔を合わせた関係づくりをすすめてきているが、時期によっては移行が難しく継続となることが課題である。守山区の医療さぽーと部会に参加し、現状を報告し地域の課題について話をしてきた。

また、必要に応じて担当者会議を開き、関係機関と情報の共有をすることを通して、必要な支援を考え合うようにしてきている。

表6-1 区別・年齢別状況

(単位：件)

区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年	計
千種区			8	15 (1)	5	22 (2)	23 (1)	4	77 (4)
守山区	1		7	9	8	13 (2)	33 (5)	2	73 (7)
名東区		1 (1)	7	6	6	2	18 (1)	2 (1)	42 (3)
その他							1		1
計	1	1 (1)	22	30 (1)	19	37 (4)	75 (7)	8 (1)	193 (14)

注) ()内は年度内 終了児(事業所移行、セルフ、終了、転居、死亡)

表6-2 月別計画作成状況

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	19	12	10	14	4	18	7	19	20	45	6	21	177
本計画作成	21	40	29	6	8	10	18	19	13	23	10	13	222
モニタリング	7	14	13	11	9	16	23	14	8	22	12	11	160
家庭訪問	47	66	52	31	21	44	48	52	41	90	28	45	559

表6-3 月別基本相談状況

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家庭訪問	1		5	1	11	2	3	3	3	13	5	3	50
来所	2	6	4	4	2	2	3	1		1			25
電話	1	9	7	2	2	6		3	4	1	9	4	48
計	3	15	16	7	15	10	6	7	7	15	14	7	123

表6-4 相談内容

(単位：件)

サービス利用等	子どもの発達・障害	子育て	幼・保・学校など	家族	子どもの余暇等	その他
803	12	14	37	19	1	40

表6-5 サービス担当者会

(単位：件)

難事例情報共有	支援方法の共有
5	2

表6-6 月別会議等

(単位：件)

	区	会議名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
自立支援連絡協議会	千種区	こども部会	1	3	2	1		1	1	2	1	1	1	2	16
		相談支援部会		1	1			1	1	2	1	1	1		9
	名東区	そだつ部会	1	1	1	1	1	1	1	1		1		1	10
		事務局会議	1	1	1	1		1	1	1		1	1	1	10
	守山区	児童部会		1		1			1		1				4
運営連絡会	市				1						1				2
	4通園		1						1						2
	東部				1			1							2
	施設内	1			1		1	1		1					5

・自立支援連絡協議会では、子ども部会（千種区）やそだつ部会（名東区）に参加し、事業所や関係機関と情報の共有や事例検討などを行っている。

2 保育所等訪問支援事業

表6-7 保育所等訪問支援事業の実施件数

(単位：件)

区分	千種区	守山区	名東区	他区他市	計
保育園		5	1		6
こども園		2			2
幼稚園	1	1		1	3
計	1	8	1	1	11

表6-8 保育所等訪問支援事業の月別実施状況

(訪問実績は延べ件数)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	5	3	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	59
訪問実績	7	5	11	9	9	7	7	8	7	8	9	8	95

11名の訪問支援を行った。

期間は概ね6か月、月に1～2回訪問した。

継続児は4名、新規が7名であった。

3 名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザー事業

2024年9月から名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業から本格実施となった。名古屋市で4名体制となり、東ブロック（千種・名東・中・昭和）が担当である。

1. 事業内容

- (1) コーディネーターに対するスーパーバイズ
- (2) コーディネーターと医療、保健、福祉、教育等の関係機関等の連携の促進
- (3) 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援等
- (4) コーディネーター当の養成に係る協力
- (5) 地域における社会資源の開発
- (6) 周知広報
- (7) 医療的ケア児の把握
- (8) 事業効果測定への協力

表6-9 事業実績

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規件数	2	3	3	3	2	3	1	2	2		1	3	25
継続相談対応件数 (のべ数)	15	14	10	14	16	16	15	16	14	13	11	10	164
短期の介入件数 よろず相談的内容	4	5	6	10	3			2	6	6	4	4	50
退院前カンファレンス参加	1	2	1	1	4		1		1			3	14
担当者会議	1	2	3			1	1	1	2			2	13
個別調整	1	3	1	2	2			1		2	2	3	17
その他 (会議・啓蒙活動等)	2	11	8	10	3	5	12	8	11	5	11	5	91

表6-10 新規件数 対象児の年齢

(単位：件)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	中学生	16歳以上	不特定相談	計
件	16	0	1	2	0	1	1	3	0	1	0	25

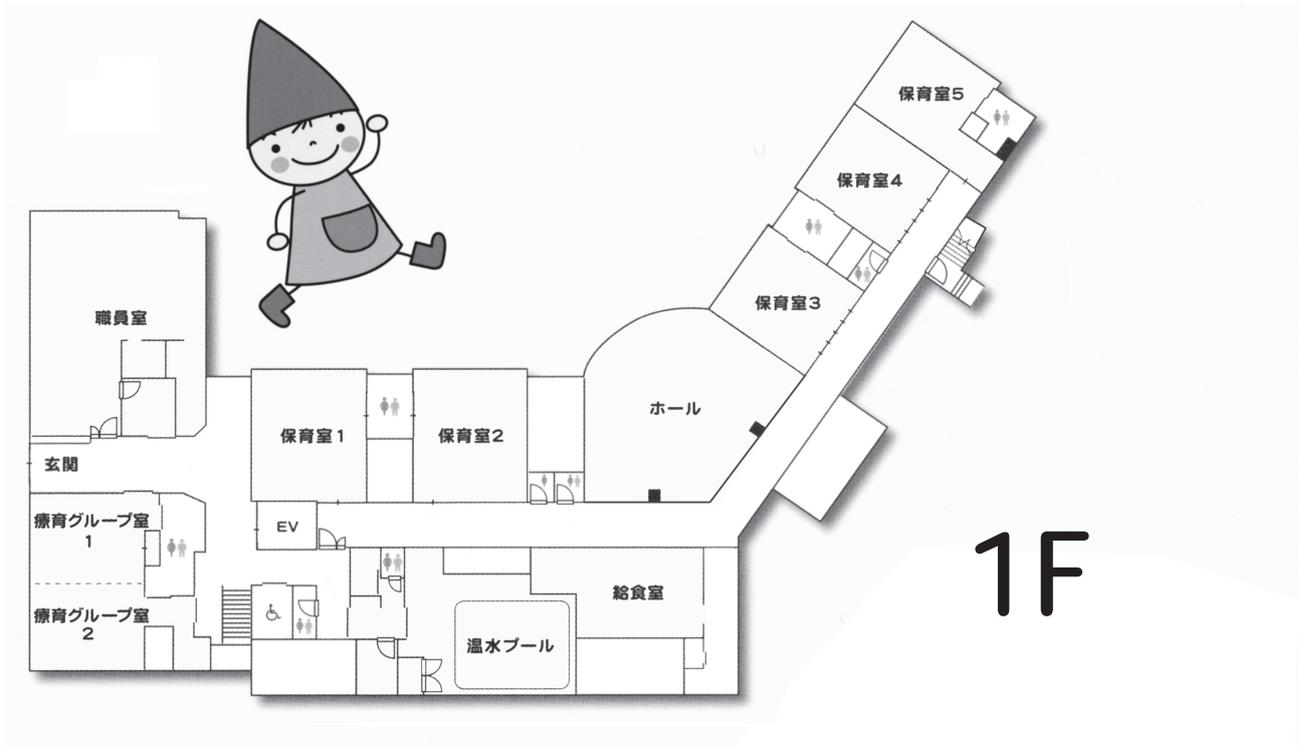
表6-11 周知広報

(単位：件)

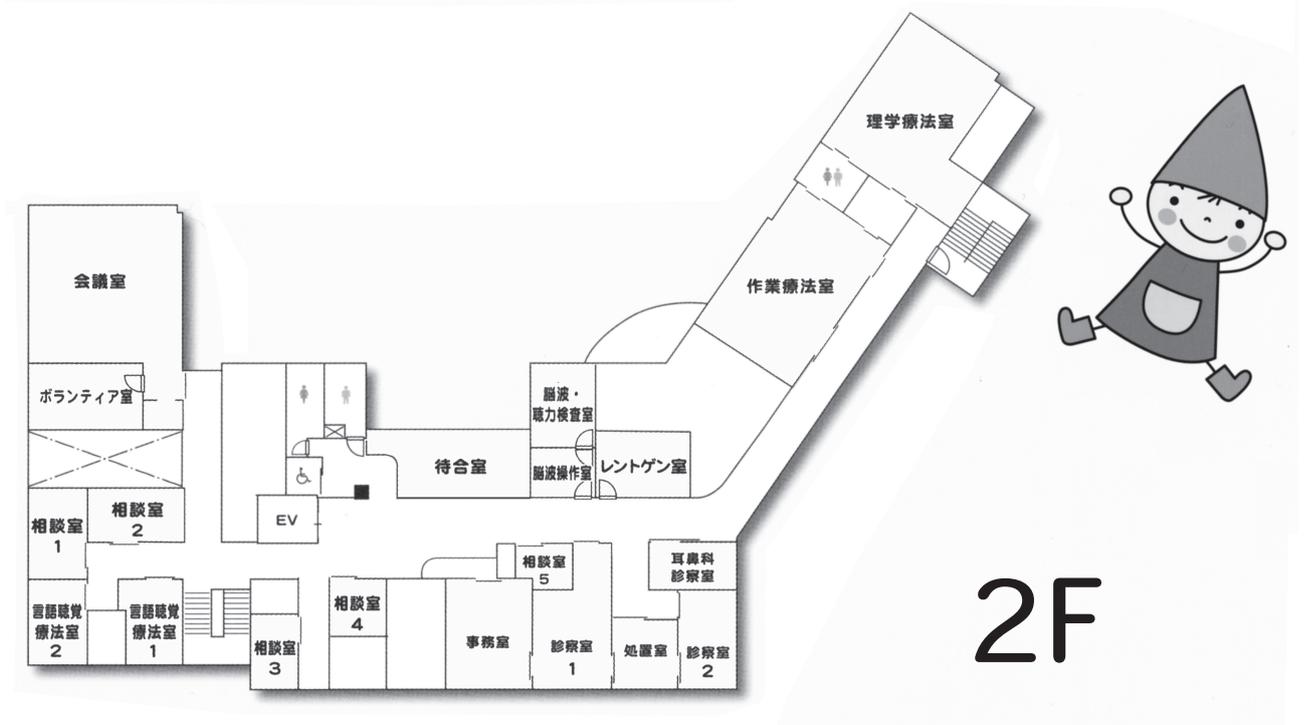
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医療機関			1	3			1						5
幼稚園・保育園・学校	5			2									7
訪問看護・リハビリ	1		2	2	3	3	1	2	2	1	1	1	19
行政 (本庁・区役所・議員)	1			3							1		5
障害福祉サービス事業所	1	3		1	2	2		5	4	2	3	5	28
相談支援事業所 (基幹含む)		4	6	10	1	1			2	4	1		29
保健センター	1	1									1		3
その他関係機関	1	4		7			1		5	5	7	3	33

注) その他関係機関は、看護学部教員等、社会福祉協議会(包括的相談支援スタッフ含む)、地域の子ども食堂などのNPO、子ども応援委員会、教育委員会、患者会、地域の防災関係者、町内会等、福祉車両、報道関係者などであった。

平面図



1F



2F

2025 年 7 月発行

東部地域療育センター

ぽけっと

〒 464-0032 名古屋市千種区猫洞通 1-15

TEL 052-782-0770 FAX 052-782-0771

E-mail pocket@shakaikan.com

初回相談受付：052-784-5300
